

海 辺 の グランド デザイン

A stylized graphic of a coastline. The land is represented by a light green shape on the left, and the water by a light blue shape on the right. The text '海 辺 の' is positioned above the land, 'グランド' is above the water, and 'デザイン' is positioned across the boundary between land and water.

平成 28 年 3 月 千葉市

はじめに



千葉市には全長約 42 kmにも及ぶ海岸線があります。海岸線の多くは、わが国有数の国際港である千葉港の港湾施設が集積され、千葉市経済をけん引する役割を担っていますが、稲毛から幕張にかけては、全国的にも類を見ない総延長 4.3 kmに及ぶ人工的に整備された砂浜があります。

かつて千葉市の海辺には遠浅の海が広がり、保養地として文人墨客に親しまれ、海水浴や潮干狩りのシーズンには多くの人で賑わっていました。高度経済成長期に行われた埋立てによって、この海岸が失われたことから、新たに市民にレクリエーションを提供する場所としたものです。

人工海浜は、いなげの浜と検見川の浜、幕張の浜からなり、稲毛海浜公園や幕張海浜公園を核として、東京湾の広がりや一体となった、自然味あふれる広大なオープンスペースを形成しています。いなげの浜は東京から最も近い海水浴場として、夏季には多くの人で賑わい、検見川の浜はウインドサーフィンのメッカとして知られ、幕張の浜は多種多様の大規模なイベントの会場として利用されています。

現在でも、さまざまな形で活用されている海辺ではありますが、人々のライフスタイルやニーズが多様化・複雑化している今日、スポーツ・レクリエーションだけではなく、都市生活のあらゆる場面で海辺が活用されていく新しいライフスタイルを発信・提案して、市民の皆様をはじめ、多くの皆様が有意義な時間を過ごすことのできる場所としていきたいと考えています。

そこで、3つの人工海浜と2つの海浜公園を一体的に捉えた「海辺エリア」をはじめ、その周辺の活性化を図るため、官民が連携して、海辺が持つポテンシャルを最大限引き出しながら、新たな魅力づくりに取り組んでいく方向性を示した「海辺のグランドデザイン」を策定しました。

今後は、「海辺のグランドデザイン」に基づいて、市民や企業などの皆様と連携を図りながら都市型ビーチとしての可能性を追求していくことで、千葉市の魅力がさらに高まっていくことを期待しています。

結びに、策定にあたって、市民の皆様をはじめ、市議会や企業など、多くの皆様より貴重なご意見・ご提案をいただきましたこと、また、千葉県や大学関係者の皆様に多大なるご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

平成28年3月

千葉市長 熊谷 俊 人

－ 目 次 －

I	海辺のグランドデザインの目的と位置づけ	1
II	稲毛・幕張海浜エリアの現況と課題	2
III	稲毛・幕張海浜エリアの将来像	10
IV	稲毛・幕張海浜エリアのまちづくりの基本方針	22
V	稲毛・幕張海浜エリアの活性化フレーム	30
VI	海辺のグランドデザインの実現に向けた取組み	47
参考資料		50
・用語集		
・アンケート調査結果概要		
・市民ワークショップ結果概要		
・市民意見募集で寄せられた提案		

I

海辺のグランドデザインの目的と位置づけ

1 海辺のグランドデザインを策定する目的

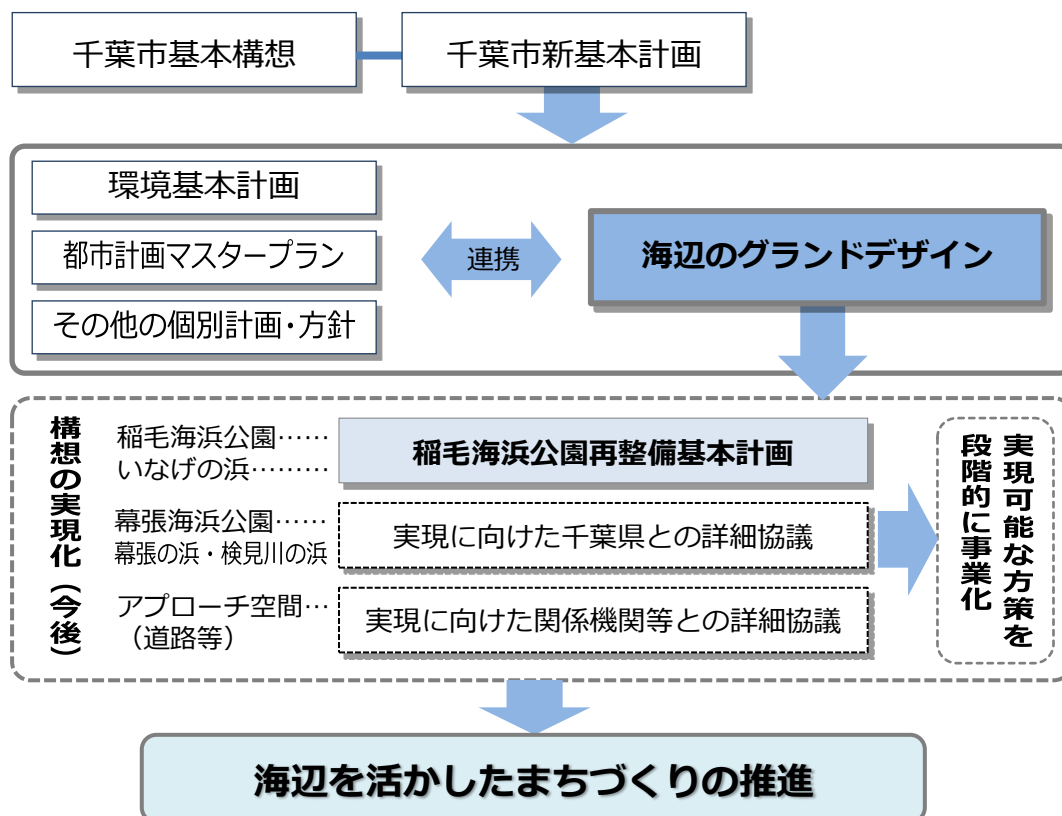
稲毛・幕張海浜エリアは、国際交流・中枢的業務・学術文化・スポーツ・レクリエーション・住宅などさまざまな機能が集積された本市第2の都心である幕張新都心と、道路や公園等のインフラが計画的に整備され良好な住環境を形成している海浜ニュータウン稲毛・検見川地区からなる区域です。この区域のうち東京湾沿岸には、全長約4.3 kmに及ぶ人工の砂浜と大規模な海浜公園が立地し、先進的な都市の街並みや良好な住宅地に広大な海辺のオープンスペースが接する特徴的な空間を形成しています。

本市は、この海辺エリアを本市固有の地域資源と捉えて、都市としての魅力向上やスポーツ・レクリエーションなど市民生活の充実、観光を含めた地域経済の活性化を進めていくこととしました。

海辺を活かしたまちづくりにあたり、多くの市民や企業・団体、行政など、海辺エリアに関わる人々が自ら発意をもって主体的・持続的・発展的に取り組んで頂けるよう、20～30年先を見据えた将来のあるべき姿を描いた海辺のグランドデザインを策定しました。

2 海辺のグランドデザインの位置づけ

海辺のグランドデザインは、千葉市基本構想・千葉市新基本計画を受けて、環境基本計画や都市計画マスタープラン、その他の個別計画や方針等に定めている各施策と連携を図りながら、海辺を活かしたまちづくりを効果的に進めて行くための活性化の方向性を定めるものです。



II

稲毛・幕張海浜エリアの現況と課題

1 現況と特性

(1) 対象地の設定

稲毛・幕張海浜エリアは、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜の3つの人工海浜〈全長約 4.3 km〉と、稲毛海浜公園〈約 83ha〉・幕張海浜公園（D.E.Fブロック）〈約 42ha〉の2つの海浜公園からなる海辺エリアと、隣接する幕張新都心と海浜ニュータウン稲毛・検見川地区の市街地からなる区域です。

対象の設定にあたっては、海辺を活かしたまちづくりの担い手となる市民の日常生活圏や、市内外からの来訪者の誘致と公共交通によるアクセスを考慮して、海辺エリアとその後背地となっている JR 京葉線までの市街地の区域としました。



図 II-1-1 対象地の位置図

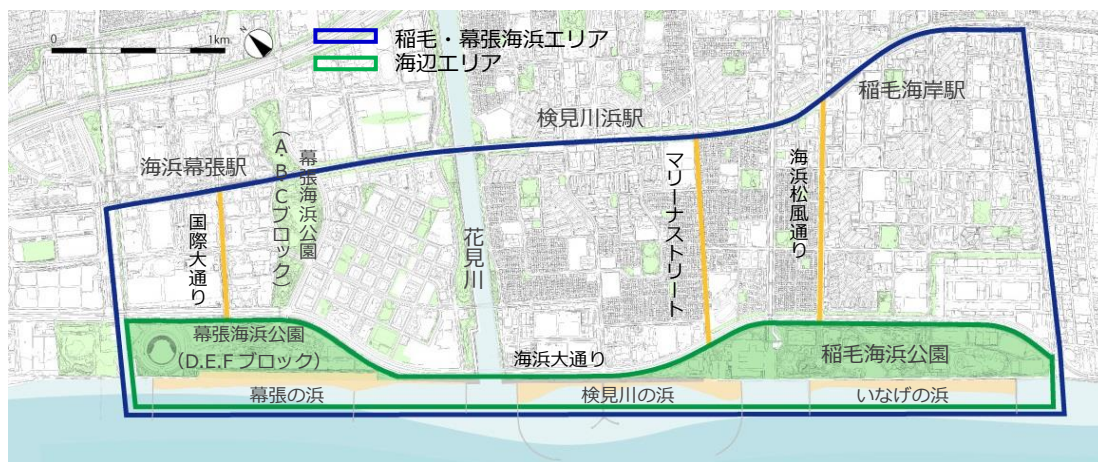


図 II-1-2 位置図

(2) 現況と特性

1) 計画的に整備され、商業・業務・住宅などの諸機能がバランス良く配置された市街地

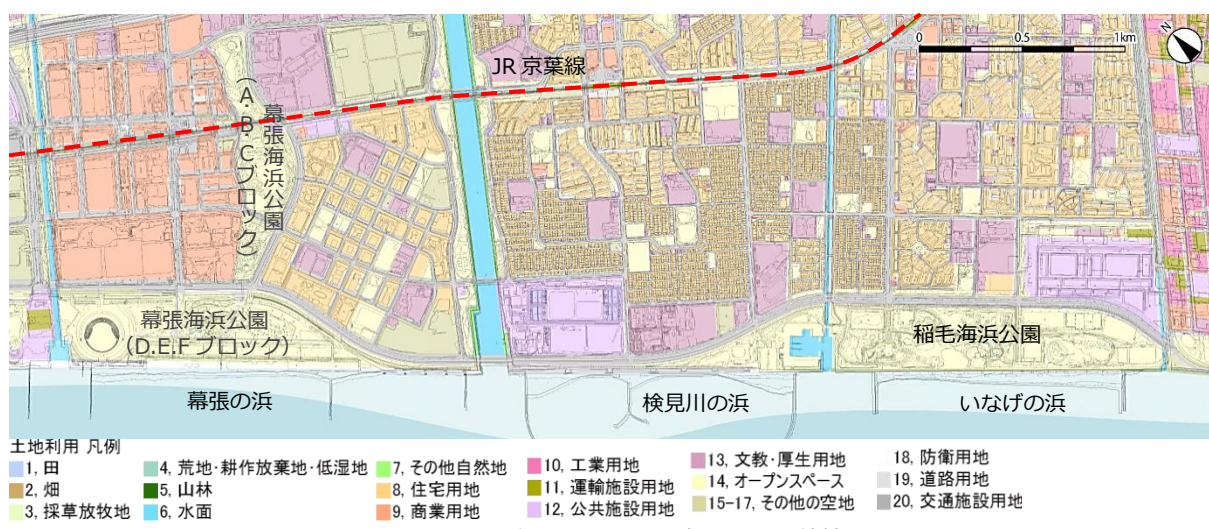
稲毛・幕張海浜エリアは、かつて埋立てにより造成された土地に商業・業務・住宅の諸機能がバランス良く配置されており、海岸部には人工海浜と大規模な海浜公園が配置され、花見川を境に東側の海浜ニュータウン稲毛・検見川地区では住宅系の土地利用が行われ、西側の幕張新都心では商業・業務系を中心とする土地利用が行われています。

また、道路などのインフラも計画的に整備され、東西方向の JR 京葉線を軸に、南北方向に形成されたバス路線がエリア内の各拠点を結ぶ公共交通ネットワークが形成されています。

特に、幕張新都心は、東京都心や成田国際空港からのアクセス性に優れ、企業集積が進み大規模なコンベンション施設が立地していることなどから、1日あたり約23万人（平成26年度）の人々が活動しています。また、都心型住宅の幕張ベイタウンや海浜ニュータウン稲毛・検見川地区など生活の利便性に優れた大規模な住宅地が形成され、稲毛・幕張海浜エリアには約8万2千人（平成26年度末）が居住しています。



幕張新都心と幕張海浜公園



資料：国土交通省「国土数値情報土地利用メッシュ」平成21年度

図Ⅱ-1-3 土地利用図

2) 日本一の長さを誇る人工海浜

海浜エリアにある3つの浜は全長で約4.3kmにおよび、人工海浜としては日本一の長さを誇ります。

いなげの浜（昭和51年オープン）はわが国初の人工海浜で、東京都心に最も近い海水浴場として、稲毛海浜公園プールとともに毎年多くの人で賑わっています。また、検見川の浜（昭和63年オープン）ではウインドサーフィンなどのマリンスポーツが盛んに行われ、幕張の浜（昭和54年オープン）では幕張ビーチ花火フェスタやサマーソニックなどの大型イベントが開催されています。

3つの砂浜からは、東京湾越しに富士山や東京の高層ビル群、東京スカイツリーなどの眺望が得られ、毎年2月・10月にはダイヤモンド富士を楽しむことができるなど、市街地にありながら広大な海辺の景観を楽しめる憩いの場として親しまれています。



東京湾の広がりのある景観



ダイヤモンド富士

3) 市民の日常的な利用や、さまざまな大型イベントで活用されている2つの海浜公園

稲毛海浜公園は面積約 83ha の総合公園です。園内には、いなげの浜や三陽メディアフラワーミュージアム（千葉市花の美術館）、稲毛海浜公園プール、野球場やテニスコートなどの運動施設、稲毛ヨットハーバーなどがあり、四季を通じて市民をはじめとする多くの来訪者に親しまれています。

幕張海浜公園（D.E.F ブロック）は、面積約 42ha の広域公園です。QVC マリンフィールド（千葉マリンスタージアム）、自由広場、駐車場などがあり、イベントの開催時には市内外から多くの人々が訪れています。



稲毛海浜公園
三陽メディアフラワーミュージアム
(千葉市花の美術館)



幕張海浜公園
QVC マリンフィールド
(千葉マリンスタージアム)

2 課題

ここでは、対象地の現況と特性を踏まえ、海辺を活かしたまちづくりを進めるうえでの課題について、土地利用、環境・景観、交通ネットワーク、都市のマネジメントの4つのまちづくりの分野に基づいて整理しました。

(1) 土地利用

1) 地域の歴史・文化を活かしたまちづくり

- ・ かつて稲毛から幕張にかけては遠浅の海岸があり、海水浴や潮干狩りなどの行楽地として賑わい、明治時代半ば稲毛海岸に建築された海気館には文人墨客が訪れ、海苔漁や砂遊びなど生活との関わりも深く、干潟を利用した民間航空の飛行場や研究所が開設されていました。
- ・ 高度経済成長期に本格的に開始された埋立てによって失われた自然や観光資源を取り戻そうと、海浜公園とともに人工海浜が整備され、現在は海水浴やマリンスポーツ、イベントなどを楽しむ人々で賑わうエリアとなっています。
- ・ 市民が愛着と誇りを持って住み続けることができるよう、身近にある海辺がレクリエーションやレジャーを楽しめる場所であり続けるとともに、かつての海岸の風景、歴史と歴史の中で生まれた文化や人々の営みが感じられる要素をまちづくりに積極的に取り込んでいくことが重要です。

2) さまざまな世代の人が暮らしやすいまちづくり

- ・ 都市の成熟化に伴い、市街地が整備されたときから高齢化が進み、住民の年齢構成も変わってきました。特に海浜ニュータウン稲毛・検見川地区では近年の高齢化率は25%を超えています。
- ・ 公共施設の老朽化も進み一斉に更新時期を迎えることが見込まれている中で、今後のまちづくりにあたっては、高齢者や若年者、子どもなど、それぞれの世代が望むライフスタイルを実現できるような暮らしやすいまちづくりを進めることが重要です。

3) 在住・在勤者や来訪者の消費行動を取り込むまちづくり

- ・ 現在、稲毛・幕張海浜エリアには約8万2千人が居住しています。このうち幕張新都心には、東京都心に近接している利点もあって多数の企業が立地し、国際的な会議や展示会、イベント等が開催されるなど、1日約5万7千人が働き、年間約4,820万人が訪れています。
- ・ 今後のまちづくりにあたっては、こうした居住者や就業者、来訪者のニーズに対応して消費行動を取り込みながら地域経済の発展にも資するような取組みを進めていくことが重要です。

4) 海辺エリアと商業・業務地、住宅地が一体化するまちづくり

- ・市街地では、土地利用の方針を定めて機能性や利便性、快適性が高く、美観に優れた街並みが形成されましたが、かつての白砂青松の海岸風景の復元や防風・防砂のために整備された松林と公園の樹林は、約 40 年の時を経て大きく生長して緑豊かな空間を形成しているものの、海と公園、公園と市街地が物理的・視覚的に分断され、海辺へのアプローチがしづらく、見通しも遮られていることから、海辺の親しみやすさ、利用しやすさに影響が生じています。
- ・このため、海辺エリアへの誘導を促進する観点から、海を感じられるような演出とともに、歩行・自転車・自動車・公共交通のいずれの方法でもアクセスがしやすい環境づくりが重要です。

5) 既存施設を効率的に活用したまちづくり

- ・稲毛・幕張海浜エリアは、昭和 30 年代から始められた埋立てにより造成され、昭和 50 年代に都市の基盤整備や公園施設の整備が行われました。このため、近い将来一斉に施設の更新時期を迎えることが見込まれています。
- ・人口減少や維持管理費等の増大、財政の見通しの厳しさ等を踏まえて、海辺エリアの中に新たな施設の導入や既存施設の更新を行う場合は、千葉市公共施設見直し方針で示した見直しの考え方を踏まえ、利用者の利便性に配慮しつつ、機能・施設を集約化・複合化して効率的に整備を進めていくとともに、海辺エリアまでの道路沿道に立地している民間施設の空地を活用したソフトによるまちづくりなど、施設整備によらない手法も積極的に導入していくことが重要です。

(2) 環境・景観

1) 水辺の自然環境に親しめるまちづくり

- ・いなげの浜は、東京都心からもわずかな時間でアクセス可能な海水浴場で、夏季を中心に家族連れをはじめとした多くの市民などで賑わっています。また、花見川沿いにはサイクリングコースが整備されており、市民の憩いの空間として、サイクリングや散歩、釣りなどを楽しむ光景を目にすることができます。検見川の浜には市の鳥・コアジサシが営巣するエリアがあり、保護対策を進めてきた結果、繁殖地として定着しつつあります。
- ・海辺エリアにある松林や公園の樹林、砂浜などの水辺空間は、長い年月をかけて人の営みと共存しながら育まれてきた結果、生き物が定着し、市民が身近に自然に触れることができる貴重な場所であることから、水や砂浜、緑、生き物など水辺の自然環境を保全するとともに、多くの市民が水辺に親しみ楽しめる場所としていくことが重要です。

2) まちの中で海を感じられるまちづくり

- ・海辺エリアをまちづくりの中に取り込んでいくため、千葉市景観計画等に基づき海辺の魅力を活かした景観形成の目標や民間建築物に関する基準などが定めています。また、

海辺エリアへのアプローチとなっている道路にマリーナストリート・海浜大通りなど海にちなんだ愛称が付けられ、海浜大通りの街路樹の一部に南国を彷彿とさせるヤシの木が使われているなど、施設名称や街路樹の樹種によって海辺をイメージさせる取組みが一部で行われています。

- ・ 海辺エリアと市街地の空間的な一体性・連続性を形成していくため、道路や駅舎等の公共施設や建築物などの街並みにも海辺をイメージさせる形態やデザインなどが取り入れられて海辺エリアと市街地の一体性が感じられるよう、引き続き、千葉市景観計画に基づいて景観の維持や形成に努めていくことが重要です。

3) 海を眺めても海から眺めても楽しめる場づくり

- ・ 東京湾越しに眺める富士山、東京スカイツリー等の東京の高層ビル群など、広い海と空、遠景の山並みや建築物等のスカイラインからなる景観は、東京湾に面する海辺エリアの大きな魅力です。
- ・ また、かつての白砂青松の風景を再現するため、市民の手によって植栽されたいなげの浜の磯の松原や、幕張海浜公園の防風・防砂林等の緑のほか、幕張新都心に林立する高層ビルによって形成されているスカイラインなど、海から見ても美しい景観が広がっています。
- ・ このため、富士山や房総丘陵、東京湾、東京都心の高層ビル群や東京スカイツリーなどの遠景を、公園の中の樹林や池、広場などの近景とともに楽しむことができる演出や、海からも水際の景観を楽しめるビューポイントを形成していくことが重要です。

(3) 交通ネットワーク

1) 徒歩やジョギングで楽しめるまちづくり

- ・ 海辺エリアは、ジョギングや散歩などで利用されることが増えてきています。特に、ジョギングの人気の高まりを受けて海辺エリア内に設定した全長 13km の幕張稲毛シーサイドランニングコースは多くの市民に利用されています。
- ・ 計画的に整備された道路には十分な歩行空間が確保され、幕張新都心の中心部では、歩道やスカイウェイが相互に連結され、立体的な歩行空間が形成されています。
- ・ 海辺エリアへのアクセス性の向上を図るため、既設のスカイウェイも活用しながら歩行空間の連続性を高めていくとともに、海辺エリアをひとつなぎにする歩行空間を形成して回遊性を促進し、歩くことそのものを楽しめる環境づくりが重要です。

2) 自転車で楽しめるまちづくり

- ・ 本市は自転車利用の促進に取り組んでおり、自転車を市民の日常の足として積極的に活用していくため、自転車走行空間の整備を段階的に進めています。
- ・ 稲毛・幕張海浜エリアは計画的に基盤整備が進められた埋立地で、平坦な地形や十分な幅員が確保されている道路は自転車の利用に適しており、海辺エリアへのアクセス性や稲毛・海浜幕張エリア内の回遊性を向上していくため、自転車レーン等の整備やコミュ

ニティサイクルの導入について需要の見通しを勘案しながら検討などを進めるとともに、休憩施設や駐輪場等を設けるなど利便性を高めていくことが重要です。

3) 公共交通機関が利用しやすいまちづくり

- ・ 海辺エリアは、JR 京葉線の各駅からは 1km 前後、JR 総武線の各駅からは 3 km以上の距離があり、JR 総武線からのアクセスでは、バスなど公共交通機関を利用することが多いと考えられますが、JR 京葉線のうち稲毛海岸駅や検見川浜駅の周辺では住宅系の土地利用が行われているため、駅から海辺エリアに向かう朝夕の時間帯以外のバス利用の需要が少なく、幕張海浜公園やその周辺と比べると、稲毛海浜公園までの公共交通機関によるアクセスの利便性には課題があります。
- ・ 活性化の進捗を踏まえて関係機関と連携して公共交通の充実を進め、アクセス性を向上していくことが重要です。

(4) 都市のマネジメント

1) エリアマネジメントの先進性を活かしたまちづくり

- ・ 幕張新都心には、市民もしくは企業等によって構成されているまちづくり団体が複数あり、環境美化や防犯、賑わいづくりなどの取組みが自主的に進められています。また、海浜ニュータウン稲毛・検見川地区の一部では、良好な住環境を維持・保全するための構想づくりを行うなど、エリアマネジメントの取組みが行われています。
- ・ 今後はまちづくり団体やまちづくりの発意を持った人材を積極的に活用し、官民連携や市民との協働によって持続的・発展的にまちづくりを進めていくことが重要です。

2) 市民の力を活かした質の高いサービスの実現や活動支援のためのしくみづくり

- ・ 稲毛・幕張海浜エリアでは、海辺の立地を活かしたイベントやマリンスポーツの普及、自然環境の保全など、複数の団体がさまざまな分野のまちづくり・賑わいづくりに取り組んでいます。
- ・ 海辺エリアの魅力を高めていくためには、まちづくり団体との連携を図りながら、より市民や来訪者のニーズに即した海辺の魅力づくりを進め、より質の高いサービスを提供していくことが求められます。
- ・ こうしたまちづくり団体が持続的・発展的に取組みを展開していけるよう、活動場所の提供などの支援を進めていくことが重要です。

3) 安全・安心の確保に留意したまちづくり

- ・ 本市では、地震・風水害等の防災対策、インフラ・建築物の耐震化、道路や公園等のバリアフリー化などを進め、安全・安心のまちづくりに取り組んでいます。
- ・ 稲毛・幕張海浜エリアについても引き続きハード面の対策に取り組み、市民をはじめ多くの来訪者が安全に安心して快適に過ごせる環境づくりを進め、ホスピタリティを発揮しながら良質なサービスを提供していくソフト面の充実を進めていくことが重要です。

課題のまとめ

稲毛・幕張海浜エリアの課題については、将来像やまちづくりの基本方針を検討していくため、次のとおりまちづくりの分野ごとに整理しました。

●土地利用

- ・地域の歴史・文化を活かしたまちづくり
- ・さまざまな世代の人が暮らしやすいまちづくり
- ・在住・在勤者や来訪者の消費行動を取り込むまちづくり
- ・海辺エリアと商業・業務地、住宅地が一体化するまちづくり
- ・既存施設を効率的に活用したまちづくり

魅力ある地域づくり

既存資源の活用

●環境・景観

- ・水辺の自然環境に親しめるまちづくり
- ・まちの中で海を感じられるまちづくり
- ・海を眺めても海から眺めても楽しめる場づくり

自然資源の保全・活用

海を感じる景観の形成

●交通ネットワーク

- ・徒歩やジョギングで楽しめるまちづくり
- ・自転車ですれすれまちづくり
- ・公共交通機関が利用しやすいまちづくり

回遊性の向上

●都市のマネジメント

- ・エリアマネジメントの先進性を活かしたまちづくり
- ・市民の力を活かした質の高いサービスの実現や活動支援のためのしくみづくり
- ・安全・安心の確保に留意したまちづくり

持続的な
まちづくりの推進

図Ⅱ-2 課題のまとめ

III

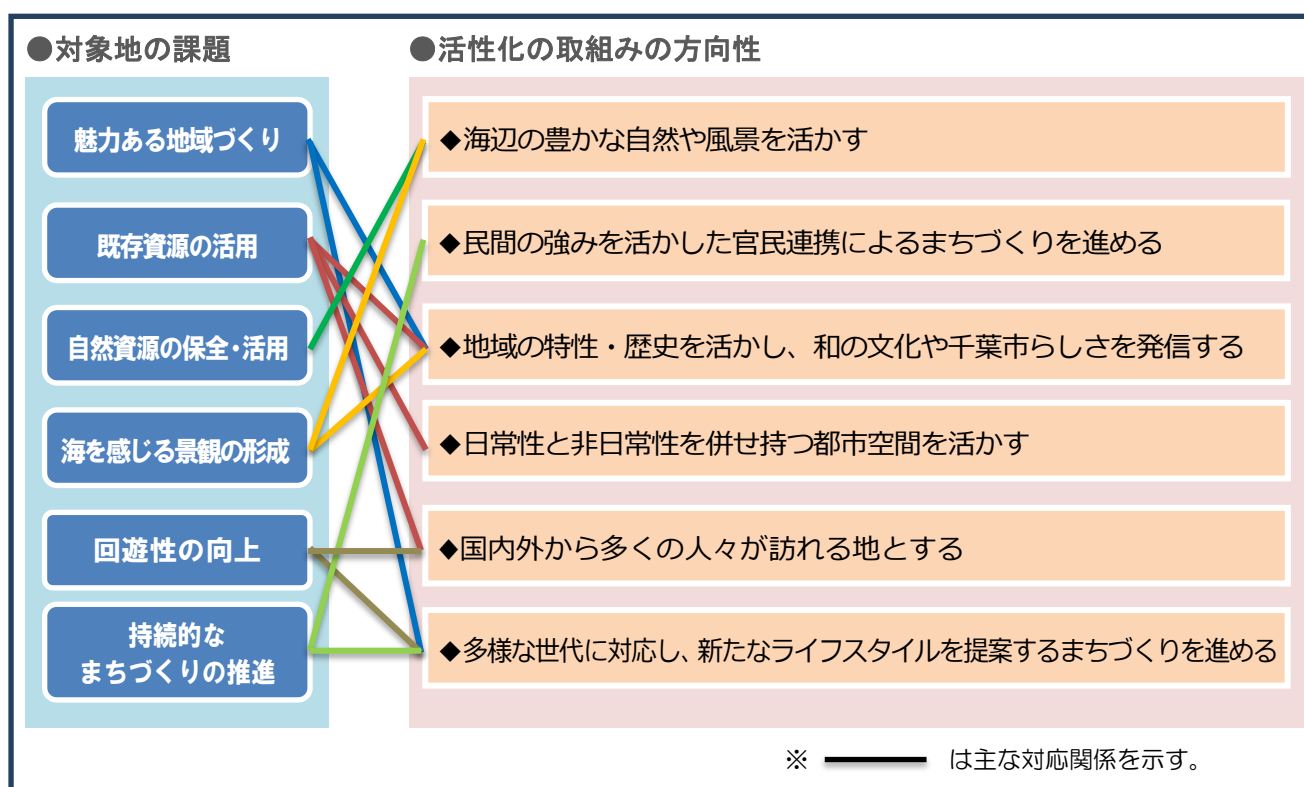
稲毛・幕張海浜エリアの将来像

海辺のグランドデザインでは、20～30 年先を見据えた将来像として、こうありたいという将来のくらしを描きました。

なお、この将来像の実現に向けて、Ⅳ章でまちづくりの基本方針、Ⅴ章で海辺エリアを中心とする稲毛・幕張海浜エリアの活性化フレームを示します。

1 活性化の取組みの方向性

Ⅱ章で整理した課題に対応しつつ、あるべき稲毛・幕張海浜エリアの将来像を描く前提として、次の6つの「取組みの方向性」を定めました。



図Ⅲ-1 課題と活性化の取組みの方向性の関係

● 活性化の取組みの方向性

◆ 海辺の豊かな自然や風景を活かす

- ・ 海辺エリアの大きな魅力は、海と砂浜、公園の緑、そこに生息する生き物をはじめとする自然であり、また、この自然とともに、砂浜で遊び憩う人々やマリンスポーツなどを楽しむ人々の様子、東京湾越しに見える富士山や東京の高層ビル群、東京スカイツリーなどの遠景からなる海辺の風景です。
- ・ こうした海辺の自然や風景を核とした活性化の取組みを展開していくことで海辺エリアの特徴づけを行いながら、まちづくりを進めていくことが求められます。

◆ 民間の強みを活かした官民連携によるまちづくりを進める

- ・ まちづくりでは、行政だけではなく、市民や企業など全ての人に果たすべき役割があります。市民は主として生活者としての立場から住民同士の協力のもとで生活環境を守り育むこと、企業は主として経済活動を通じて地域を活性化していくことなど、それぞれのまちづくりへの関わり方があります。
- ・ 近年では、市民との協働によるまちづくりが活発化しているとともに、企業が社会貢献活動としてまちづくりに取り組む事例も見られます。特に、賑わい創出のための魅力的な施設の導入や運営では、民間事業者の企画立案能力や資金調達能力を含めた経営ノウハウの活用に大きな期待が寄せられます。
- ・ 今後のまちづくりでは、市民や企業など、民間の強みを活かした官民連携によるまちづくりの推進が求められます。

◆ 地域特性・歴史を活かし、和の文化や千葉市らしさを発信する

- ・ 情報技術の向上、高速鉄道や道路網の充実によって国内の時間距離が短縮されたことなどから、就業場所や居住地の地理的な制約が薄らぎ、より企業活動に有利な地域、住みやすく魅力的な地域が選別されていく地域間競争が一層激しくなることが予想されます。
- ・ 企業立地・就業・居住・観光などの場所として選ばれる地域となるためには、稲毛・幕張海浜エリアが活力に満ちた地域となることが重要です。
- ・ そのため、海辺エリアとその周辺を含む地域の特性や歴史、都市基盤や諸施設など、これまで築いてきた資産を活かしながら海辺エリアの活性化に取り組み、地域の個性を磨き上げて他の地域との差別化を図り、和の文化や千葉市らしさを PR していくことが求められます。

◆ 日常性と非日常性を併せ持つ都市空間を活かす

- ・ 先進的な都市空間に国際会議や大型イベントにも対応可能な幕張メッセ、プロ野球をはじめ音楽イベントにも活用されている QVC マリンフィールド、そして海辺エリアのいなげの浜、検見川の浜、幕張の浜、稲毛海浜公園、幕張海浜公園があります。住み・働き・学ぶなどの生活の場としての「日常性」と、ビッグゲームに心躍らせコンサートに心酔いしれる感動を提供する「非日常性」の両方を体験できるエリアです。
- ・ この特性を活かし、住み働く場所として、また観光などで訪れた来訪者に多彩で魅力的なサービスを提供し続けていく活力に満ちた場所としていくことが求められます。

◆ 国内外から多くの人々が訪れる地とする

- ・ 海辺の活性化の取組みを持続的・発展的に進めていくためには、海辺エリアを中心に稲毛・幕張海浜エリアへ多くの人々を呼び込むことで賑わいを創出し、地域経済の発展にも資するまちづくりを目指していく必要があります。
- ・ 幕張新都心の企業や海浜ニュータウン稲毛・検見川地区の市民等と行政が協力し、海辺エリアという本市固有の地域資源を活かして国内外を問わず多くの来訪者が海辺エリアで過ごすために観光などで訪れてもらえるよう魅力的な場所としていくことが求められます。

◆ 多様な世代に対応し、新たなライフスタイルを提案するまちづくりを進める

- ・ ライフスタイルの多様化に伴って、要求されるサービスの内容や水準も高度化・複雑化してきました。海辺の活性化の取組みとして新たに取り入れていく機能や施設については、民間事業者のノウハウや技術などの活用も含めて検討していくなど、まちづくりでは、多様な世代・ライフスタイルに対応していくことが求められます。
- ・ また、海辺を活かしたまちづくりでは、これまでのライフスタイルに加え、海辺と都心の近接性を活かして、出勤前にジョギングや散歩をしたり、海が見える場所でリラックスした雰囲気会議を行ったり、アフターファイブに東京湾の夜景を眺めながらディナーを楽しむなど、本市の海辺ならではの新しいライフスタイルを提案して発信・浸透させ、多くの人に実践されていく取組みが求められます。
- ・ さらに、持続的・発展的なまちづくりには、その担い手となる市民や来訪者などの人を集めて維持していくしくみを築くことが重要です。全国的な傾向と同じく、稲毛・幕張海浜エリアについても人口減少や高齢化が進みつつありますが、自らまちづくりの担い手となって住み続けたい地域としていくとともに、できる限り多くの来訪者にとって魅力的なサービスを提供していけるようなまちづくりが求められます。

2 活性化コンセプトと将来像

(1) 活性化のコンセプト

稲毛・幕張海浜エリアには、高度な都市機能が集積された幕張新都心、快適性や洗練された景観を兼ね備えた都心型住宅、そして閑静な低層住宅地があります。そこには、暮らし働く人々の営みや、訪れる人々との交流があります。そして、東京湾に面した砂浜や花見川などの水辺、緑が繁り、野鳥などの生き物が集まる自然色豊かな公園があります。

これからの海辺では、レクリエーションやレジャーの場所として活用していくことはもちろん、これまで市街地の中で行われていたさまざまな活動が海辺エリアににじみ出ていき、海辺を活かした生活文化が築かれて、海辺エリアを舞台に思い思いのアーバンライフが展開されていくことを目指して、次のとおり活性化のコンセプトを定めます。

海辺とまちが調和するアーバンビーチ

都市の海辺ですごく 新しいライフスタイルの提案

(2) 将来像「将来の暮らし」

20～30 年先の海辺エリアで繰り広げられる暮らしをイメージした4つのライフスタイルを物語風に描きました。これらを稲毛・幕張海浜エリアの将来像とします。

物語の要素は、アンケート調査、市民ワークショップの成果、学識経験者等の意見・提案から取り込んでいます。

4つの「将来の暮らし」

暮らし1
日常と非日常を楽しめる暮らし



暮らし3
海辺に人が集い交流が広がる暮らし



暮らし2
四季を通して海辺に親しめる暮らし



暮らし4
みんなで海辺に賑わいを作り出す暮らし



くらし1 国際的な都市の活気と海辺の歴史を身近に感じる 日常と非日常を楽しめるくらし

ある年の夏、花見川河口にて。

冬実（小学生）は、ふと川面から歓声の聞こえる花見川サイクリングコース脇の広場を見上げた。今日は土曜日。お父さんと弟の秋男（5歳）と一緒に花見川沿いから海辺へサイクリングに来ている。お母さんは会社からの帰り道におばあちゃんちに寄って、夕方には戻るって言ってたな。

おばあちゃんとおじいちゃんは駅に近いマンションに住んでいて、スーパーやケアセンターも近いし、便利らしい。お父さんは駅のそばの高層ビルの中にある外資系の会社で働いている。うちの家は、駅からちょっと離れている。けど、学校は近いし、何より、海や花見川がすぐそばにある^{※1}。ピクニックやアスレチック、バーベキュー^{※2}、海水浴、プール^{※6}、海釣り^{※3}にいつでも連れて行ってもらえる。

最近、家族みんなで花見川でカヌーの練習^{※3}を始めた。冬実はまだ一人では乗れないけど、中学生になったらヨット部に入ってみたらってお父さんが言っていた。となりのおじさんはヨットを持っていて、いつも楽しそうだな。冬実もいつかヨットに乗ってみたい。



明日は、お父さんとお母さんの結婚記念日で、プロ野球のゲームを見た後、リラクゼーションサービスで心も身体もリフレッシュして、幕張海浜公園の海上レストランでご飯^{※4}を食べるんだって。楽しみ！夜景もとてもきれいで、外国から来た観光客にも人気があるんだってお母さんも嬉しそうにしてたな。



弟の秋男はあまり運動が得意じゃなかったけど、地域の人が運営している夕方保育で、毎日稲毛海浜公園の丘に登って遊んでいる^{※5}うちに、だいぶ体力がついたみたい。去年までは怖がって海に入らなかったのに、今年はプールで泳げるようになったし、海に入っても泣かなかった^{※6}な。

冬実は、昔の稲毛の海辺の雰囲気を感じられる松林や木立ちの中にある古めかしいデザインの建物^{※7}で座りながら弟が自転車の練習をしている様子を眺めていた。

「冬実！秋男が自転車に乗れたぞ！」歓声をあげたのはお父さんだ。補助輪無しで自転車に乗れるようになった秋男が、お父さんの周りを何周も、笑顔でこぎ続けていた。



- ※1 職場や遊び場が近くにあり、多様な世代が暮らしやすいまちとなっている
- ※2 公園にはさまざまな遊び場が充実している
- ※3 ウォータースポーツ等を楽しめる場が充実している
- ※4 東京湾を一望できる海辺らしいシンボル施設や、スポーツ・リラクゼーションをテーマとした新しい賑わいの場が形成されている
- ※5 富士山のビューポイントにもなり、土地の起伏が楽しめる園地が整備されている
- ※6 プール、海水浴場のある砂浜は、夏季はもちろんイベント等に参加する人で年中賑わっている
- ※7 かつての海岸を彷彿とさせる風景や、歴史を感じながら散策が楽しめる

■ウォータースポーツを満喫

【場所：花見川～検見川の浜】

- ※3：川沿いのサイクリングロードはお父さんが若い頃もよく使っていたって。昔はなかったけど、今はカヌーなどの水辺のレジャースポットになっていて、東京からも人がたくさん来てるの。検見川の浜の突堤では海釣りもできるのよ。

■歴史が感じられる場所

【場所：稲毛海浜公園】

- ※7：この場所に来ると、昔の日本って感じがする。かつては多くの有名な作家たちが稲毛海岸に来たって本で読んだことがある。

■土地の起伏が楽しめて、おもいきり遊べる園地

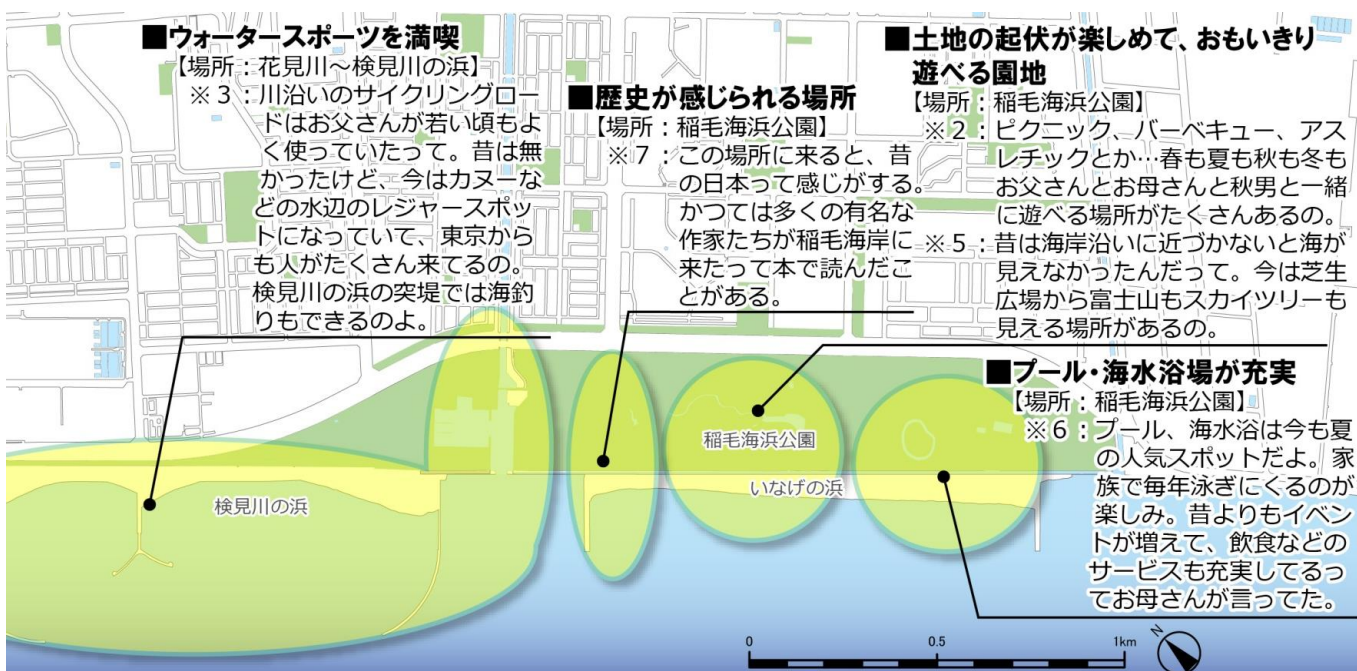
【場所：稲毛海浜公園】

- ※2：ピクニック、バーベキュー、アスレチックとか…春も夏も秋も冬もお父さんとお母さんと秋男と一緒に遊べる場所がたくさんあるの。
- ※5：昔は海岸沿いに近づくないと海が見えなかつたんだって。今は芝生広場から富士山もスカイツリーも見える場所があるの。

■プール・海水浴場が充実

【場所：稲毛海浜公園】

- ※6：プール、海水浴は今も夏の人気スポットだよ。家族で毎年泳ぎにくるのが楽しみ。昔よりもイベントが増えて、飲食などのサービスも充実してるってお母さんが言った。



図Ⅲ-2-1 くらし1の物語の展開図

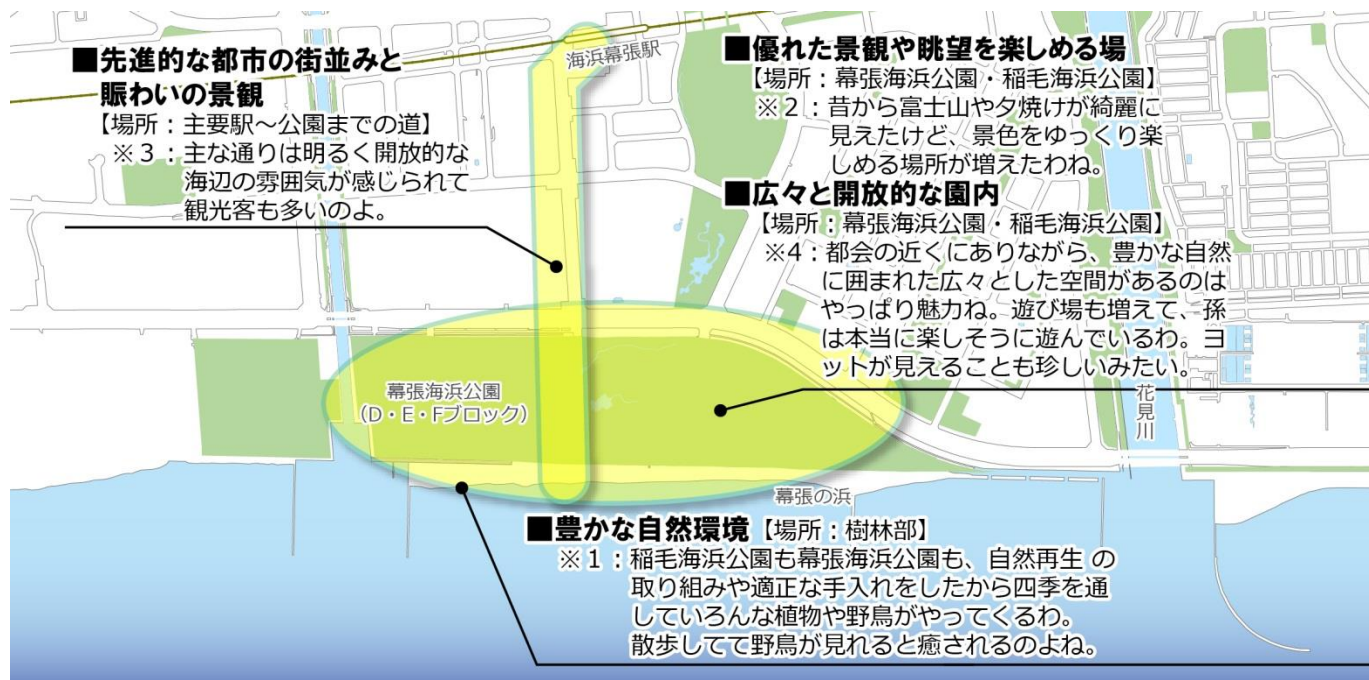
くらし2 埋立地に再生された海岸の豊かな自然環境 四季を通して海辺に親しめるくらし

美浜真子（65 歳）は、息を止めて砂浜にいるコアジサシにカメラを向けた。

近頃は写真にはまり、夫（68 歳）とともに写真撮影をしに海辺を訪れている。夫婦で競い合うように海辺の風景を撮影しては写真の出来映えを自慢するのが楽しみになっている。

自然豊かな稲毛・幕張海浜エリアは、シギ類やカモメ、カモ類などの水鳥観察の名所であり、公園内の樹林はキビタキやツグミなどの野鳥も多く、四季を通して楽しめる。20 年前に、樹林管理を見直して植生も豊かになり、野鳥が増えた※¹ ようだ。

景色も良く、2 月と 10 月のダイヤモンド富士の撮影も、公園の丘や、ピア、海辺のモニュメントなど、ここならではの撮影ポイントが多い※²。昨年は夕暮れの東京湾と富士山を撮影した写真が市の展覧会で入賞した。この海岸エリアにはいい写真撮影場所がたくさんある。



良い撮影ができると写真仲間があつまって海辺のレストランでお茶を飲みながら展覧会開催を計画するのも楽しみだ。公園内の展示施設は国内外の利用者が訪れるため、作品選びにも気合が入る。JR 海浜幕張駅から幕張海浜公園へと続くプロムナードには海を感じる木々が繁り、砂浜沿いの園路には車で乗り入れることもできてビーチリゾートの明るく開放的な雰囲気※³がある。

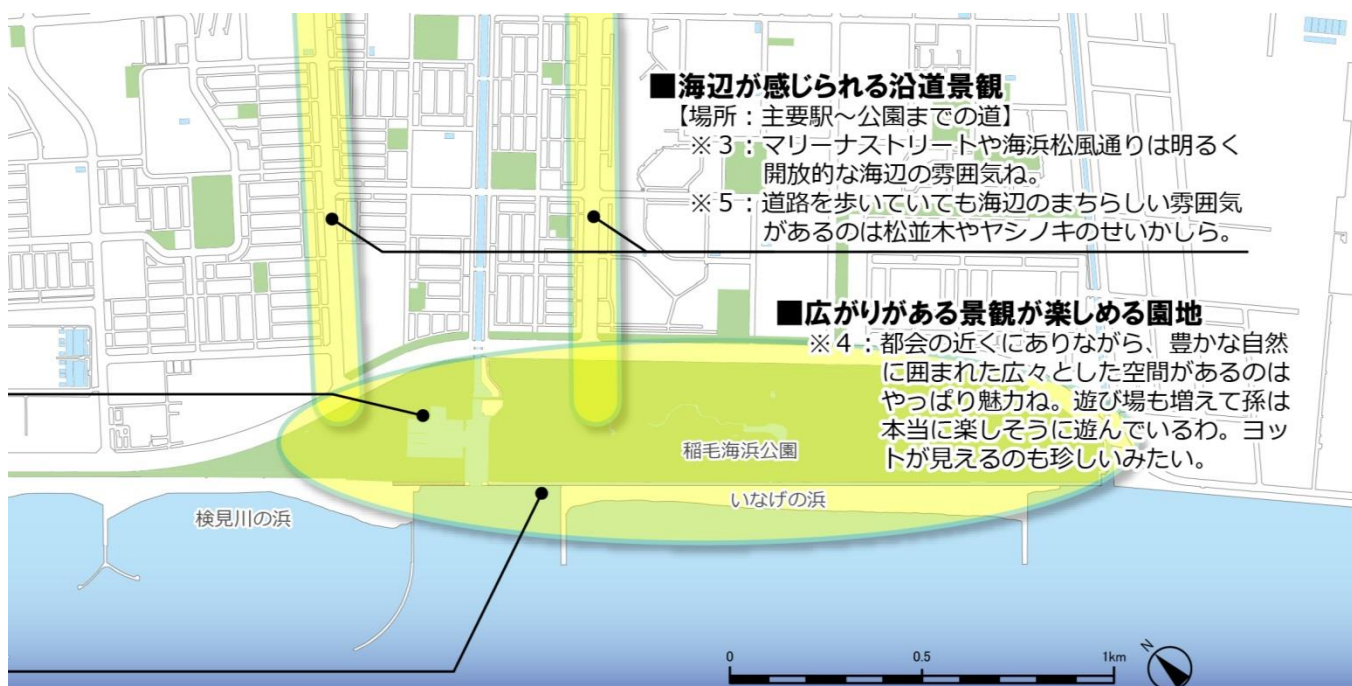


この海辺の雰囲気が好きらしく、ここ数年、息子の検太（38 歳）がよく遊びに来るようになった。もっぱら検太はジョギングや釣りを楽しみ、真子が孫の面倒をみるのだが、自然が多く目の前に砂浜が開けている広場※⁴で孫が元気に走り回っているのを見るのは真子の楽しみだ。

夫とともに海辺の街に越してきてもう 40 年たった。海辺だけでなく市街地にも緑が多く※⁵暮らしやすい。「この街を選んで本当によかった。」真子は充実した気持ちでシャッターを切った。



- ※ 1 自然再生の取組みにより生物の良好な生息・生育環境が保たれている
- ※ 2 優れた景観や眺望を楽しめる場があり、民間の建築物や公共施設は景観に配慮された形態やデザインによって整備されている
- ※ 3 駅と公園を結ぶ道路とその沿道は明るく開放的で海辺にふさわしい並木が形成されている
- ※ 4 豊かな自然があり、海に向かって解放された広場で、広々とした景観を楽しめる
- ※ 5 道路など公共施設の緑化など、海辺と内陸をつなぐ緑の帯が形成されている

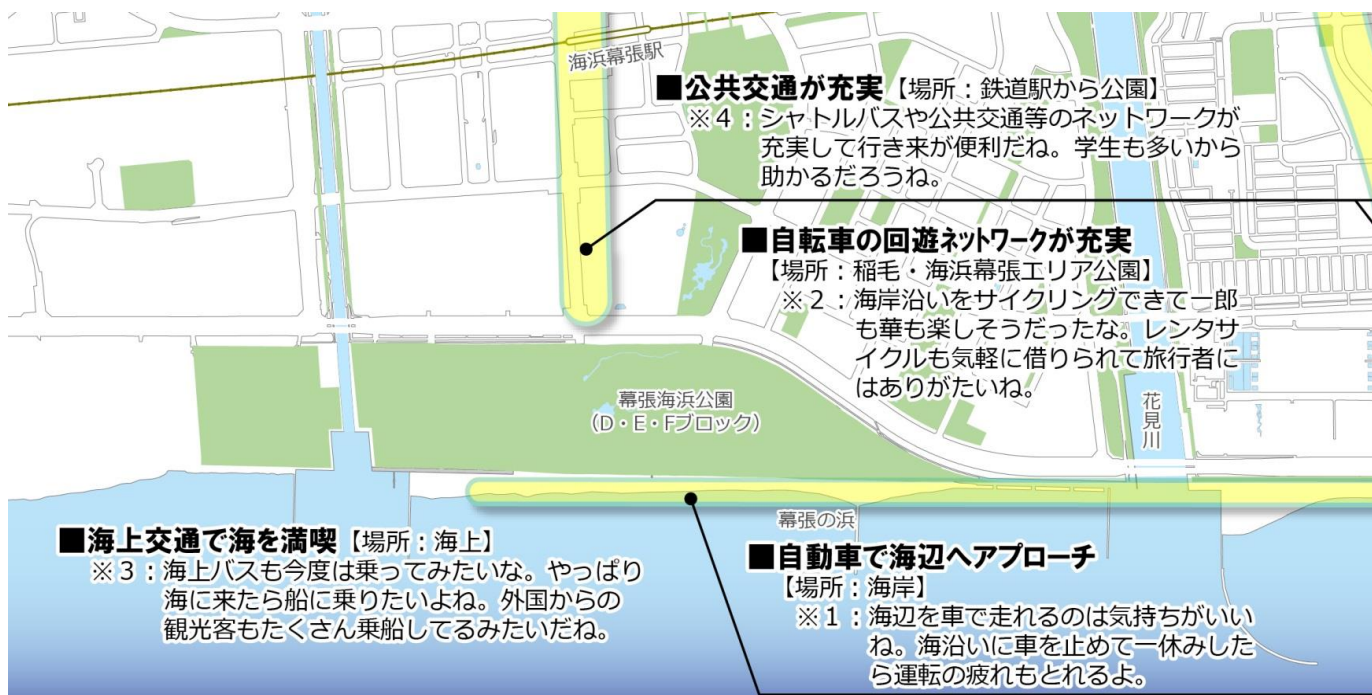
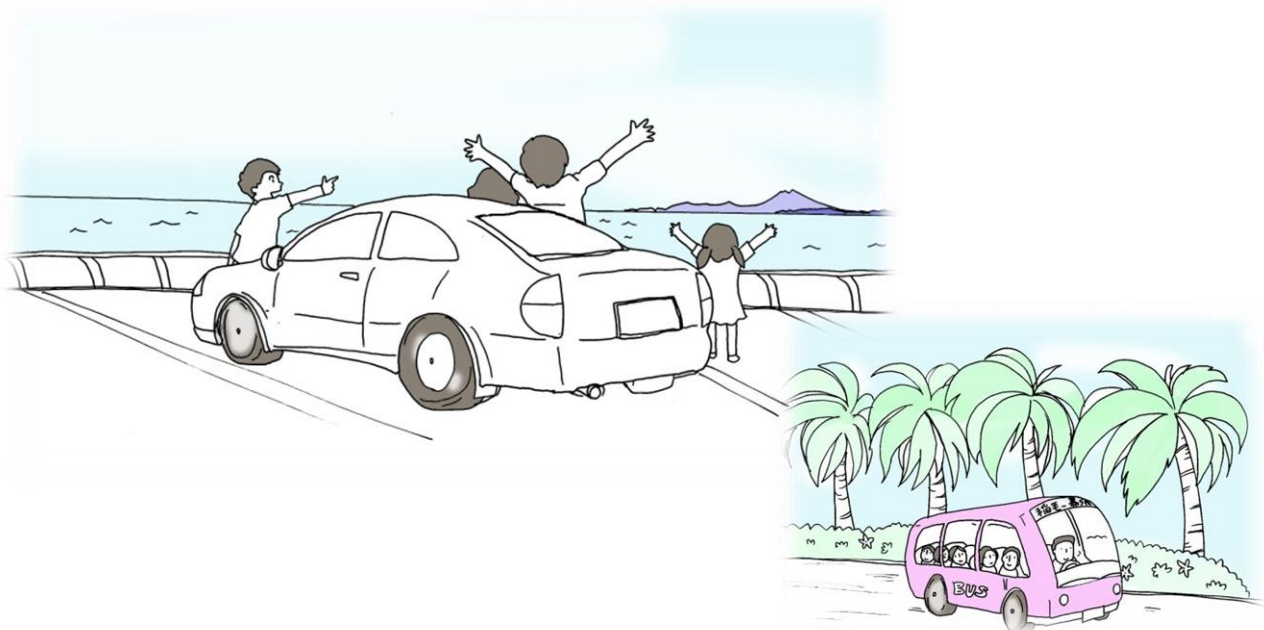


図Ⅲ-2-2 くらし2の物語の展開図

くらし3 市街地と海辺、海辺と海辺をつなぐ便利な交通網 海辺に人が集い交流が広がるくらし

「海だ！」長男の一郎（中学生）と長女の華（小学生）が車の窓に張り付いて叫んだ。陸男（41歳）は、光子（38歳）と子どもたちを連れて自家用車で家族旅行に来ている。仕事が忙しい時期だが、子ども達に海をみせてやりたいと、自然の中でレジャーを楽しめて、買い物にも便利な稲毛・幕張海浜エリアを選んだ。

まず幕張につくと、幕張海浜公園の海辺の道を移動して、途中にある駐車場に車を止めた^{※1}。公園内のショップに立ち寄り、建物内から海辺を眺めてひと休み。良い眺めだ。一郎と華は公園のアスレチックで遊びたいと言って建物から出て行った。公園案内をみると、JR 検見川浜駅からレンタルサイクルで海岸沿いをサイクリング^{※2}したり、幕張から水上バスで稲毛や中央港まで移動^{※3}したりできるそうだ。



翌朝は、車を置いてバス^{※4}で稲毛海浜公園へ出かけた。途中、千葉市地方卸売市場に隣接した場外市場の朝市で新鮮な地の魚介類や野菜が買えると聞き、公園から市場ヘデッキ^{※5}を渡って行ってみたが、活気があり面白い。その後は、検見川の浜まで海辺のボードウォーク^{※6}を歩いて移動した。検見川の浜の前のシーサイドレストランでは千葉産の野菜や魚介のランチを食べられるのだ。ボードウォークは海が間近に感じられて子ども達も嬉しそうだ。

千葉市まで自宅から車で1時間半。20年くらい前は立ち寄ることはなかったが、今では近場でマリンレジャーが楽しめる人気のビーチリゾートだ。幕張の都会的な雰囲気と、稲毛の歴史を感じさせる情緒、どちらも面白い。

そういえば、稲毛区在住の友人が駅からの公共交通も便利になった^{※4}ので、よく海岸に散歩しに行くと言っていた。幕張の文教地区は国際的な教育でも有名だ。「一郎が大学に行く時はこんな街の大学に行かせたいな。」陸男は波打ち際ではしゃぐ子ども達を見て目を細めた。



- ※1 自動車での海辺へのアプローチのしやすさが向上している
- ※2 自転車回遊ネットワークが形成されている
- ※3 海上の交通ネットワークが出来て稲毛から幕張の移動の利便性が高まっている
- ※4 公共交通が充実して駅からのアプローチや移動がしやすくなっている
- ※5 歩行者が歩いて移動しやすいように適所に歩道橋等が整備されている
- ※6 海岸沿いを快適に散歩できる歩行空間が整備されている

■市場と公園の行き来しやすさの向上

【場所：市場から稲毛・幕張海浜公園】

※5：市街地側と公園側はデッキがあるから行き来しやすいね。市場で海の幸もたくさん買えて満足だよ。

■海辺を快適に散歩【場所：海岸】

※6：海辺のボードウォークは歩きやすい。光子は新しい靴を履いてきてしまったから、ボードウォークがないと海辺を楽しめなかったんじゃないかな。

稲毛海浜公園

いなげの浜

検見川の浜



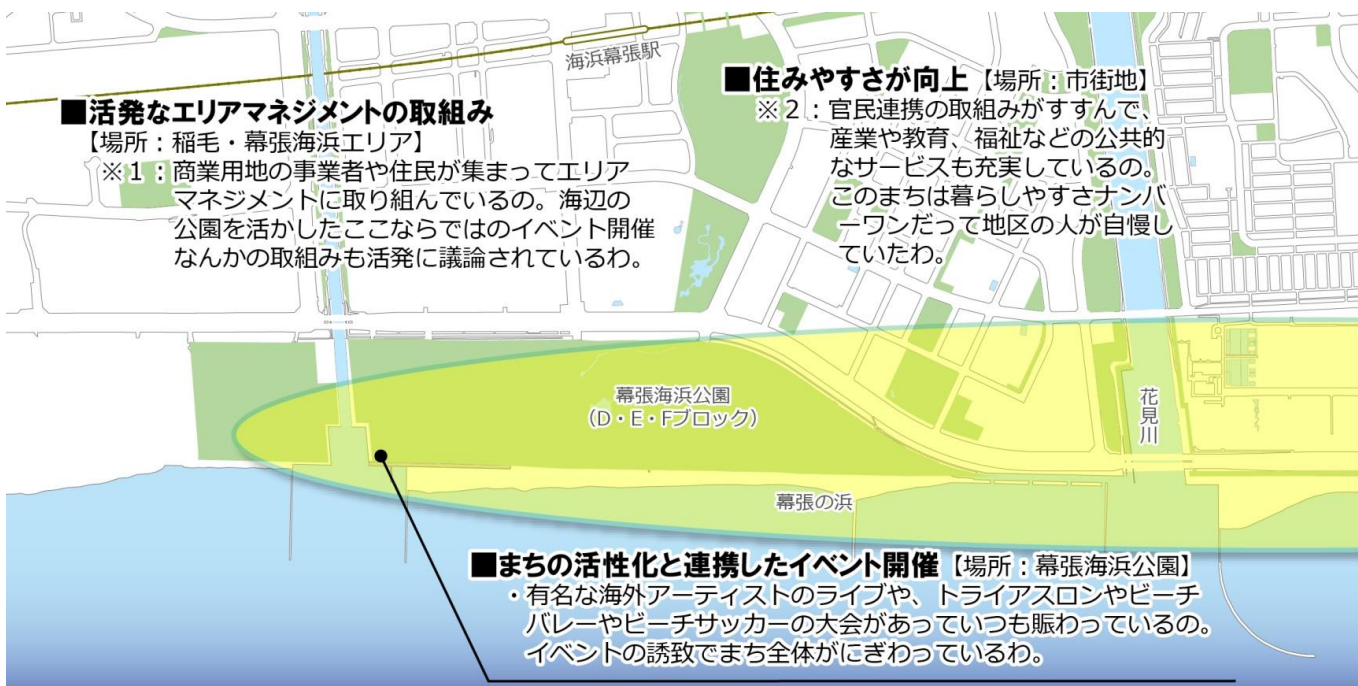
図Ⅲ-2-3 くらし3の物語の展開図

くらし4 市民・事業者がまちづくりの主役となる みんなで海辺に賑わいを作り出すくらし

「あ、今日は稲毛海浜公園の稲毛ヨットハーバーでヨガ教室があるんだ…」JR 海浜幕張駅前の電子掲示板をチェックした浜わかば（28 歳）は、仕事を終えて帰るところだったが、改札を引き返してバスに乗り込んだ。

勤め先での早番勤務を終えた後だが、自宅に帰るよりも、たくさんの人と出会いたいという気持ちの方が強い。デジタルサイネージ（電子看板）の進展で、駅でさまざまなイベントの情報が得られる。行動派のわかばにとっては強い味方だ。

この稲毛・幕張海浜エリアでは年間を通して大小さまざまなイベントがたくさん開催されている。花火大会や野外コンサート、大学の公開講座、ヨットのクルーズ体験…。このため、わかばのアフターファイブはいつも充実している。幕張に就職先を決めたのは、こういったさまざまなイベントやレジャーも楽しめそうという理由もあった。



先月参加した地域活性化セミナーで知ったのだが、これらのさまざまなイベントの計画は、地域協議会で企画・調整されているらしい※¹。以前、友達と行ったウインドサーフィン体験は、マリンスポーツ事業者がアイデアを出し、稲毛ヨットハーバーを活用して実現したらしい。遠くから来た観光客も喜んでいて。そうそう、去年の秋に稲毛海浜公園で開催された国際交流会は、行政と市民団体が運営していたっけ。

地域協議会が主催した英会話教室で知り合った男性と仲良くなり、最近は海辺に夕日を見に行くなどデートも楽しんでいる。彼は、子育て支援や介護等のさまざまなサービスを展開する地域でベンチャー企業に勤めているが、この地域では起業を積極的にバックアップするしくみが整っていて、おもしろい地域なんだと言っていた。この地域の住民と市民団体、事業者が行政と連携して、教育や福祉などさまざまなサービスの提供に取り組んでいる※²のだという。

来年は、わかばの勤め先が公園のインフォメーションサービスを管理運営する※³新しい事業に着手する。地域の人はいろんなアイデアを持っていて行動派だから、色々つながっておくと勉強になると教えてくれたのも彼だ。明日は彼とヨットのクルーズ体験に行くことになっている。「なんか楽しみだな！」わかばの口元は走りながら思わず笑みがこぼれた。



- ※ 1 エリアマネジメント組織が海辺の活性化の取組みで活躍している
- ※ 2 新たな公共の考え方に基づく官民連携の取組みによって生活を豊かにするしくみができている
- ※ 3 官民連携によるより質の高い施設の整備やサービスの提供がされている

■官民連携による施設が充実

【場所：稲毛海浜公園・幕張海浜公園】

- ※ 3：官民連携が進んで、事業者が公園の施設を整備や管理しているの。昔よりも施設のデザインもサービスの質も高くて評判がいいわ。

■交流機会の増加

【場所：バーベキュー場】

- ・普段はグループで使っているけど、協議会が開催する地域交流のバーベキュー大会の会場にもなってるの。

■マリンスポーツを楽しめる新しいしくみ【場所：ヨットハーバー】

- ・マリンスポーツ事業者が開催するウインドサーフィン体験は初心者でも気軽に参加できるの。このまちのほとんどの人はヨットやカヌーを体験してるわ。



図Ⅲ-2-4 くらし4の物語の展開図

IV

稲毛・幕張海浜エリアのまちづくりの基本方針

ここでは、将来像の実現に向けたまちづくりに関する基本方針を定めます。

Ⅲ章で示した4つの「将来の暮らし」に描いた物語に基づいて、土地利用、環境・景観、交通ネットワーク、都市のマネジメントの4つのまちづくりの分野ごとに基本方針を定めます。

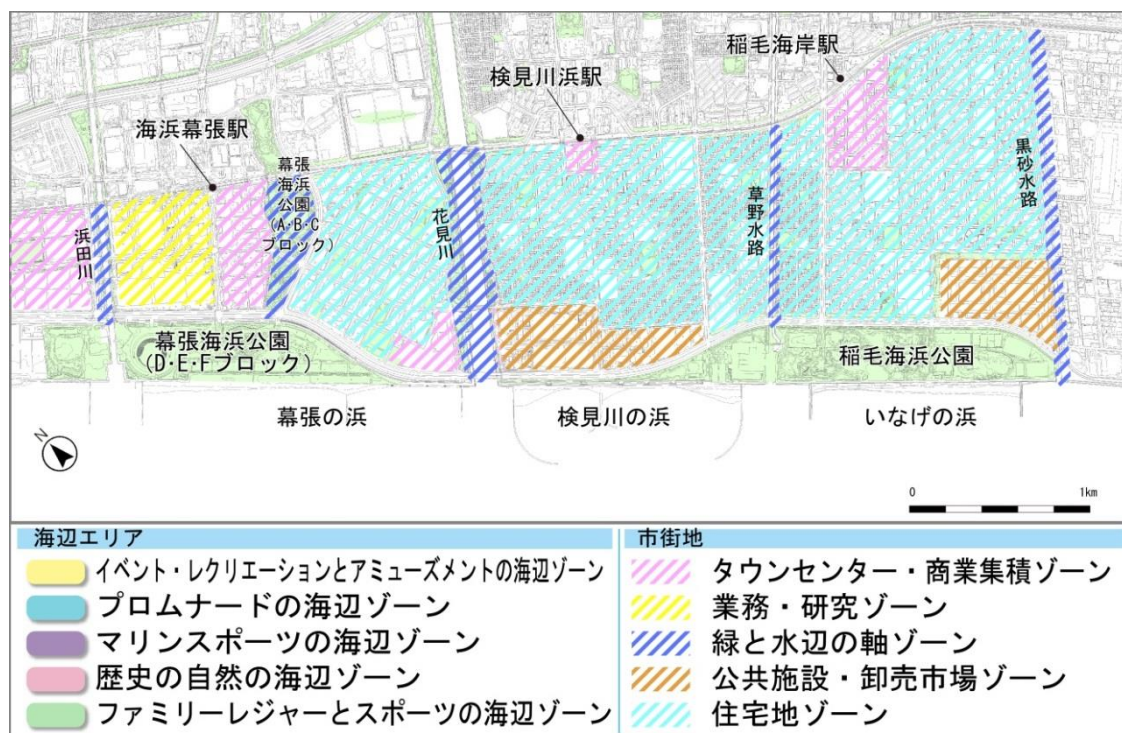
1 土地利用

(1) 基本的な考え方

稲毛・幕張海浜エリアは、埋立地に計画的に整備された市街地であり、従来の土地利用を継承していきながら、JR 京葉線各駅から海辺までの主要動線となる道路沿道に商業・サービス施設の立地を誘導するなど、賑わい向上に資する土地利用を促進していくとともに、3つの人工海浜と2つの海浜公園、幕張新都心、海浜ニュータウン稲毛・検見川地区とのアクセス性を向上して海辺エリアと市街地の一体感のある街並みの形成を促進していきます。

また、地域特性などに応じたゾーニングを行い、その特性を活かした土地利用の増進に資する新たな機能や施設を導入していきます。

(2) 基本方針



図IV-1 稲毛・幕張海浜エリアのゾーニング

1) 海辺エリア

- ・海辺エリアについては、現在の機能や主要な施設の配置状況、隣接する市街地の土地利用状況を考慮して、それぞれの特長を活かした活性化の取組みを進められるようにゾーニングを行います。
- ・稲毛海浜公園については、主な施設に稲毛ヨットハーバー、稲毛記念館・稲毛民間航空記念館などの教養施設、稲毛海浜公園プール、野球場・球技場（サッカー）・テニスコートなどのスポーツ施設があり、現状でマリンスポーツ、地域の歴史・文化、スポーツ・レジャーなど機能分担が明確になっていることを踏まえてゾーニングを行います。また、隣接するいなげの浜は海水浴場として、並びに検見川の浜はウインドサーフィンなどのマリンスポーツの場として利用されていますが、これらの砂浜については、公園と一体的に捉え、それぞれのゾーンが担う役割に応じて利活用を進めていくものとしします。
- ・幕張海浜公園については、QVC マリンフィールドや今後建設が予定されている（仮称）JFA ナショナルフットボールセンターなどプロスポーツ関連施設が立地し、また、幕張の浜は大型イベントの会場として公園と一体利用されることがあり、今後はビーチスポーツの機能の導入も計画されています。こうした機能を活用して、プロスポーツの観戦やビーチスポーツの体験などスポーツ・レクリエーションを中心に、砂浜を活用したさまざまな大型イベントが展開される一体的なゾーンとして考えるものとしします。

2) 市街地

- ・市街地については、既定の計画・方針等を踏まえて、現在の土地利用に応じたゾーニングを行います。
- ・タウンセンター・商業集積ゾーンは、各地区の賑わいの中心となっているエリアで、主に JR 各駅周辺に立地し、広域圏からの来訪者の玄関口となっています。また、業務・研究ゾーンは、国際的な業務機能や本社機能、先端産業の研究開発機能等が集積し、国内外を代表する企業が立地するエリアで、430 社が立地し、約 5 万 7 千人が就業しているほか、幕張メッセでは国際的な会議や展示会などが開催され、国内外から多くの人々が訪れています。住宅地ゾーンは、道路や公園等のインフラが計画的に整備されて良好な住環境を形成しているエリアです。
- ・これらのゾーンと海辺エリアをつなぎ、主要動線となっているマリーナストリートや海浜松風通りについては、落ち着いた住宅の街並みや街路樹の豊かな緑を活かし景観の形成を進め、また、国際大通りについては、沿道の商業機能やオープンスペースを活用して魅力的な景観の形成や賑わいの創出を進めていきます。
- ・また、緑と水辺の軸ゾーンは、花見川をはじめ、浜田川、草野水路、黒砂水路の河川等とその沿川の公園緑地、幕張海浜公園（A.B.C ブロック）からなるエリアで、市街地に潤いをもたらすとともに、海辺エリアとの一体性を演出して海とのつながりを感じられる緑と水辺を維持・形成していくゾーンとしします。
- ・なお、公共施設・卸売市場ゾーンは、市立海浜病院や千葉市地方卸売市場、県立磯辺高校等が立地するエリアで、海辺エリアの活性化にあたっては、それぞれの施設との連携・協力を図りながら、海辺エリアの魅力の向上に取り組んでいきます。

- ・ 海辺エリアの防風林や公園内の樹木が大きく生長し、生き物が定着するなど、整備から約 40 年の時をかけて豊かな自然が形成されてきました。今後は、水質の保全や多様な生き物が生息できる自然環境の保全に努めながら、樹木の健全な生育に配慮した剪定や間伐、漂着ゴミ等の清掃、養浜などの維持管理を適切に行い魅力的な場所として維持しながら、海水浴や散策、自然観察、スポーツなどを通じて海辺に親しみながら学び、快適に楽しむことのできる環境づくりを進めていきます。
- ・ 人工海浜については、自然の営みの中で砂が供給されることがなく、年月とともに砂が波によって流出してしまうことから、定期的に砂を補給する養浜が必要です。養浜にあたっては、自然環境への影響や景観・色彩、機能性、コストなどに留意しつつ、砂浜の

用途に適した砂を選定して行うものとします。

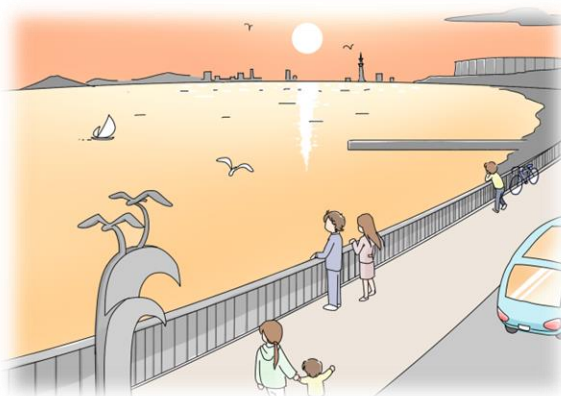
- ・ また、河川等の周辺には公園緑地が配置され、市街地に潤いを与える親水空間としての役割を担っています。引き続き水質の維持保全に努めながら、公園緑地を適切に維持管理して、親水性の高い環境づくりを進めていきます。

2) 水際からの眺めに配慮した良好な景観の形成

- ・ 海から見た海辺エリアの水辺景観についても、海浜公園内の植栽や施設の配置・形状に配慮し、市街地にある高層ビルを遠景として取り込みながら、夜景などにも配慮した良好な景観を形成していきます。
- ・ 花見川の沿川には、右岸には緑地、左岸にはサイクリングコースが整備され、緑豊かな市民の憩いの場が形成されています。これらの沿川の緑については海辺の緑につながる一体的な緑として今後も維持しつつ、樹木の生長により緑量が多く水辺を望めない箇所では適宜剪定等の管理を行い、川面が望め、対岸などから水辺と緑の眺めを楽しめるよう親水性が確保された良好な水辺景観の維持形成に努めます。

3) ゆったりと眺望を楽しめる空間の形成

- ・ 海辺エリアでは、東京湾や富士山の眺望を楽しめるようなビューポイントを各所に形成していきます。
- ・ 特に、海浜公園については、砂浜や東京湾の広大な景観を楽しめるよう、広場と砂浜が一体となった海に対して開放的な空間を形成するなど、海を見通せるビューポイントを確保していくとともに、自動車の利用者がわずかな時間でも海辺エリアに立ち寄って砂浜で一休みできるようアクセス性を高めていきます。

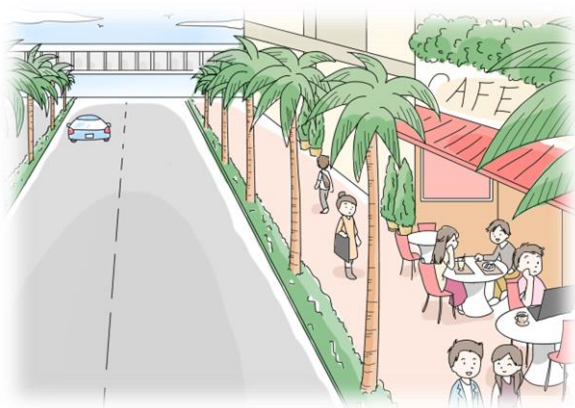


4) 海辺と市街地をつなぐ沿道・沿川の良好な景観の形成

- ・ 海浜松風通りなど海辺エリアへのアプローチ空間となる道路の街路樹や河川沿いの公園緑地、海浜公園の緑などの維持保全に努め、海を感じられる植栽によって海辺エリアと市街地をつなぐ緑の帯を形成し、海辺エリアと市街地の一体性を演出していきます。
- ・ 海浜大通りなど海辺エリアの沿道から海辺の景観を楽しめるように、公園樹木等の取扱いについて検討を進め、海を垣間見られるような工夫についても考慮した維持管理を適切に進めていきます。

5) 海辺をイメージさせるデザインコードの導入

- ・ 海辺エリアや海辺エリアへのアプローチ空間における景観形成にあたっては、千葉市景観計画や幕張新都心中心地区景観デザイン基準などの既存の方針等を踏まえながら、海辺をイメージさせるデザインコード（共通のデザインの考え方）の導入について検討を進め、質の高い統一された景観の形成を進めていきます。

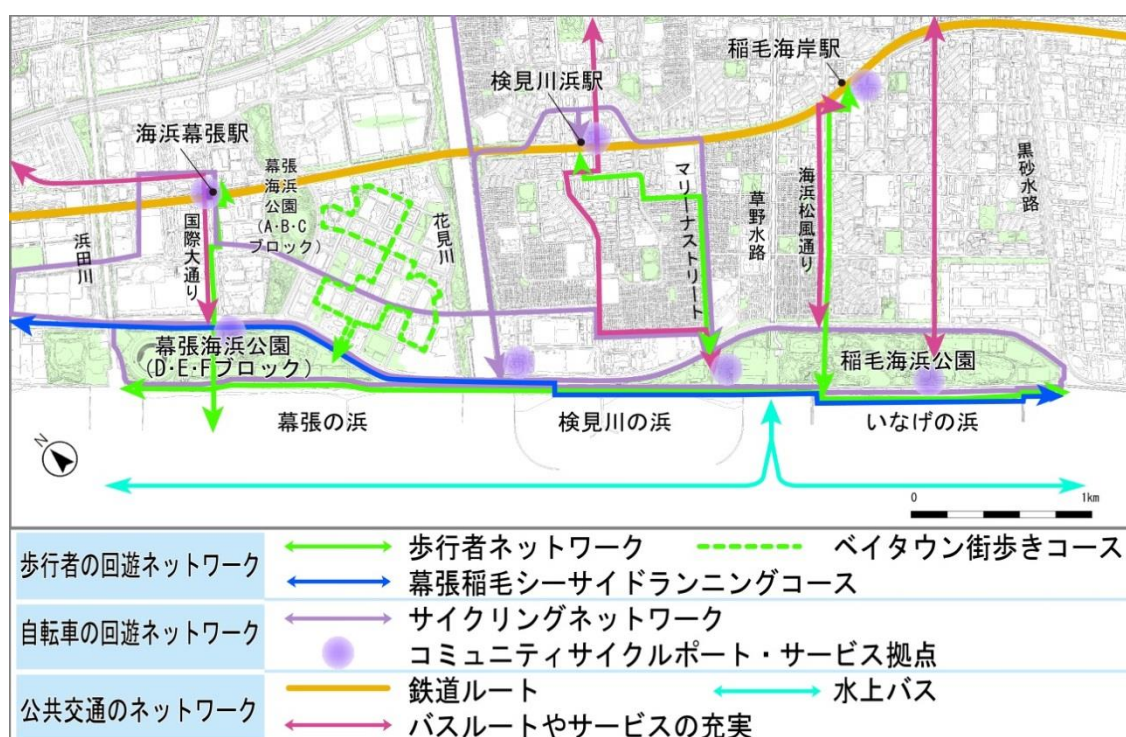


3 交通ネットワーク

(1) 基本的な考え方

稲毛・幕張海浜エリアは、西北から東南にかけて約 5.7km、JR 京葉線の各駅から海岸までは約 1km～2km 程度の距離があることから、鉄道駅から海辺エリアへのアクセス性の向上や稲毛・幕張海辺エリアの回遊性創出のため、歩行空間や自転車走行空間のネットワークの充実や、公共交通の利便性を高めていくとともに、新たな交通ネットワークの形成についても将来の需要を見極めながら検討していきます。

(2) 基本方針



図IV-3 交通ネットワークの基本方針

1) 歩行者の回遊ネットワークの形成

- 海浜幕張駅、検見川浜駅、稲毛海岸駅の各駅と海岸を結ぶ道路（歩道）には、歩いて楽しく、海を感じさせる歩行空間を形成していきます。
- いなげの浜から幕張の浜までのビューポイントには、休憩施設を配置し、海岸沿いを快適に散策できる歩行者空間を形成していきます。



2) 自転車の回遊ネットワークの形成

- ・ 稲毛・幕張海浜エリア内での利用者、来訪者の回遊を促すため、稲毛から幕張まで砂浜に沿って走行できる連続的な走行空間の形成を進めていきます。また、既存の花見川サイクリングコース等、本市の自転車ネットワークとも接続し、自転車回遊ネットワークを形成します。
- ・ なお、海辺エリアへのアクセス性の向上や自転車の利用を促進するため、コミュニティサイクルの導入等について需要の見通しを勘案しながら検討していきます。

3) 公共交通ネットワークの充実

- ・ 海辺エリアの各施設と JR 京葉線・JR 総武線の各駅、商業サービス施設、幕張メッセなどの各拠点を結ぶバスルートやサービスの充実を図り、海辺エリアへのアクセス性の向上や、稲毛・幕張海浜エリア内の回遊性を高めていきます。
- ・ 海辺エリアの東西方向のアクセス性を改善するため、幕張の浜の栈橋、稲毛ヨットハーバー、千葉中央港地区の旅客船栈橋を活用した水上バスの導入について検討していきます。また、将来の活性化の状況を踏まえて需要を見極めながら、BRT や LRT などの新交通システムについても導入の可能性について検討していきます。

4 都市のマネジメント

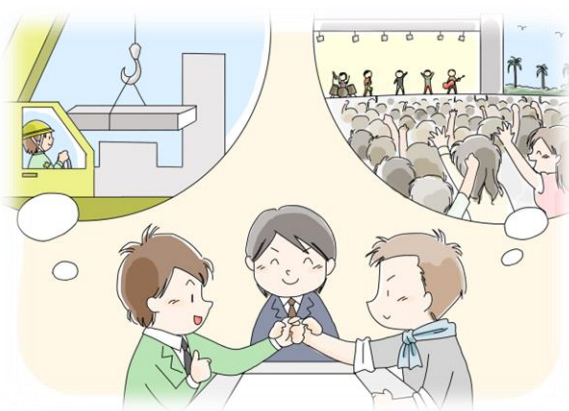
(1) 基本的な考え方

海辺エリアに新たな機能・施設を導入する際には、既存の施設やその機能を積極的に活用していくことを基本としながら、さまざまな主体が連携・協力して取り組むことで、ニーズに的確に対応したより魅力的なサービスを提供していく官民連携による都市のマネジメント組織を導入していきます。

(2) 基本方針

1) 都市のマネジメント組織の設置

- ・ 海辺の活性化の取組みを進めていくうえで、市民や来訪者のニーズを踏まえながらまちづくりに取り組んでいく都市のマネジメント組織の設置について検討していきます。
- ・ 都市のマネジメント組織は、稲毛・幕張海浜エリアでまちづくりに取り組む団体や市民、企業、行政機関などによって構成し、海辺の活性化に資する各種の取組みに関する情報の共有や企画・調整、推進などの役割を担うものとし



2) 質の高い施設の整備・サービスの提供

- ・ 海辺エリアへの新たな機能・施設の導入にあたっては、より質が高く魅力的なサービスを提供できるよう、都市のマネジメント組織の役割を活かしながら官民の役割分担に応じて積極的に民間活力を活用し、賑わいの場を創出していきます。
- ・ 海辺の活性化の取組みにあたっては、市民や来訪者のニーズを把握・分析して対応していきながら、より質が高く魅力的なサービスを提供していきます。

3) 海辺エリアの安全・安心の確保

- ・ 海辺エリアでの活性化の取組みにあたっては、施設の整備・改修等についてはユニバーサルデザインの考え方を基本としながら、管理・運営については夜間のイベントや海辺の散策などを楽しむ利用者の安全・安心に配慮した体制を確保していくなど、海辺エリアの安全・安心に留意して進めていくものとします。
- ・ また、海岸地域であることから津波・高潮などの対策にも十分留意していく必要があるため、災害発生時の利用者の適切な誘導や避難経路の確保にも配慮して取り組むこととします。

稲毛・幕張海浜エリアの活性化フレーム

本章では、20～30 年先の将来を見据えた海辺の活性化の枠組みや実現に向けた取り組みについて示します。

1 ゾーニング計画

海辺エリアの特長を踏まえながら効果的に機能や施設の配置を進めていくため、まちづくりの基本方針に基づき、海辺エリアを5つのゾーンに区分し、各ゾーンの空間構成や既存の機能・施設の配置等を勘案し、必要に応じてサブゾーンを設定します。

また、海辺エリアへのアプローチ空間として、国際大通り、マリーナストリート、海浜松風通り、海浜大通りを位置づけます。

(1) ボールパークの海辺ゾーン

QVC マリンフィールドや（仮称）JFA ナショナルフットボールセンターを核に、複合的なスポーツ・レクリエーション、健康と癒しに関するサービスを提供するとともに、海辺の眺望を楽しめるゾーンです。

(2) プロムナードの海辺ゾーン

人工海浜や海浜公園、周辺地域をつなぎ、空間的な連続性を演出して回遊性を高めることで海辺エリアの一体化を図るゾーンです。

(3) マリンスポーツの海辺ゾーン

ヨットやウインドサーフィンなどのほか、新たなマリンスポーツを通じて、海に親しみ、海を楽しめるゾーンです。

(4) 歴史と自然の海辺ゾーン

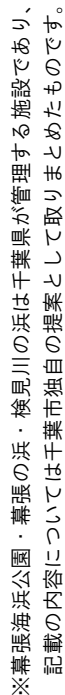
海岸の自然や歴史、文化を感じられ、ビーチと一体となった広大なオープンスペースのあるゾーンです。

(5) ファミリーレジャーとスポーツの海辺ゾーン

稲毛海浜公園プールや各種スポーツ施設が立地し、ファミリーを中心にスポーツ・レクリエーションが楽しめるゾーンです。

(6) 海辺へのアプローチ空間

海辺エリアへのアプローチ空間として、市街地の中にいながら海を感じられる演出や、アクセスの利便性を高めていくエリアです。

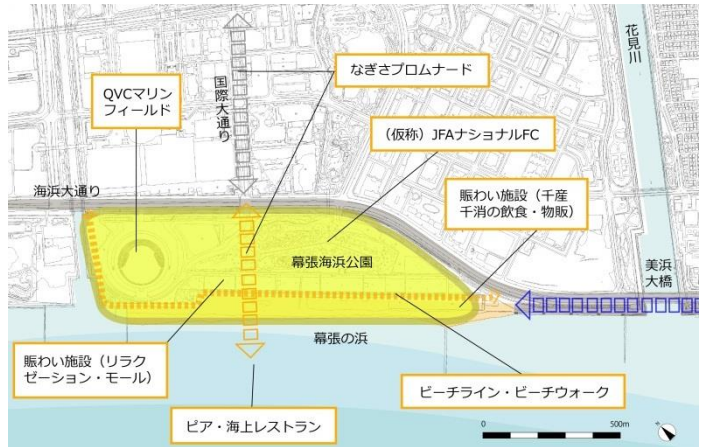


図V-1 ヴーニング計画図

2 各ゾーンに導入する機能

(1) ボールパークの海辺ゾーン

幕張新都心の中でも集客力のある幕張メッセ国際展示場などがあり、アフターコンベンションなど国内外から多くの来訪者を迎える施設に隣接し、プロ野球の試合が行われるQVCマリンフィールドが立地しているほか、今後、公益財団法人日本サッカー協会による代表チームのトレーニング施設である（仮称）JFAナショナルフットボールセンターの建設が予定されており、プロスポーツに関係する大規模施設の立地が進められているゾーンです。



図V-2-1 ボールパークの海辺ゾーン

今後は、スポーツをテーマとするイベントの開催や商業・サービス施設の導入などによる賑わいの創出や、各施設の機能を活用した専門的なトレーニング指導やリラクゼーションサービス、プロスポーツ観戦などをパッケージ化して観光需要を取り込むなど、QVCマリンフィールドや（仮称）JFAナショナルフットボールセンターを核として複合的なスポーツ・レクリエーション、健康と癒しに関するサービスを提供するゾーンとしていくことを目指していきます。

また、幕張の浜では、広大なオープンスペースを活用したビッグイベント、サッカーやバレーなどのビーチスポーツやニュースポーツなど、ビーチとしての魅力を大いに活用したイベントやレクリエーションを展開していくボールパーク・ゾーンとしての機能の導入を目指していきます。

これら機能の導入に向けて、海浜幕張駅から海辺エリアへの円滑なアクセスや海辺を見通すことのできるアプローチ空間となるなぎさプロムナードの形成について検討していきます。なぎさプロムナードの形成にあたっては、既存のスカイウェイや歩道橋、歩道を活用するものとし、海側終点部には、海上レストランなどを併設したピア（栈橋）など、海辺エリアのシンボリックな空間の形成を目指していきます。また、歩行者や自転車利用者、ジョギングを楽しむ人などが、海辺や砂浜の景観を楽しむことができる歩行空間としてのビーチウォークや、車の利用者が気軽に砂浜に立ち寄ることができるビーチラインなどの形成について検討していきます。

■主な活性化方策の例（ボールパークの海辺ゾーン）

No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード (整備改修等)		ソフト (管理運営等)	
				官	民	官	民
1	なぎさプロムナードの形成	国際大通り沿道 幕張海浜公園 幕張の浜	市街地と海辺エリアの一体性と回遊性を創出するための連続的なアプローチ空間を形成していくもの。	●	●	●	●
2	ビーチウォークの整備	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	
3	ビーチラインの整備	幕張海浜公園 稲毛海浜公園	自動車の利用者が、気軽に砂浜に立ち寄って海辺の景観を楽しむことができるよう、海辺に直接アクセスできる車両通行可能な園路や短時間利用の駐車場を整備するもの。	●		●	
4	ピア・海上レストランの設置	幕張の浜	海辺の眺望を楽しみながら食事ができるレストランなど、海辺の活性化のシンボル施設を導入するもの。	●	●	●	●
5	賑わい施設（リラクゼーション・モール）の設置	幕張海浜公園	スポーツ観戦客や健康づくりに関心のある人やアスリート等を対象としたリラクゼーション関連のサービスを中心に、ワークスペースなどの機能を備えたカフェの導入など、隣接する業務地区との連携や利用者のニーズにも留意した商業・サービス施設を導入するもの。		●		●
6	賑わい施設（千産千消の飲食・物販）の設置	幕張海浜公園	海辺エリアに関する情報を提供するとともに、地場産品を使用した飲食の提供や、休憩などのサービスを提供する施設を導入するもの。	●	●	●	●
7	健康と癒しをテーマとしたパッケージツアーの実施	幕張海浜公園	各施設の機能を活用した専門的なトレーニング指導やリラクゼーションサービス、プロスポーツ観戦などをパッケージ・ツアー化し、観光需要の創出を図るもの。				●
8	ビーチイベントの開催促進	幕張の浜	ビーチスポーツやコンサートなどの大型イベントを開催する場所として引き続き活用し、海辺の活用の象徴的な取組みを展開するもの。			●	●

※黄色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト

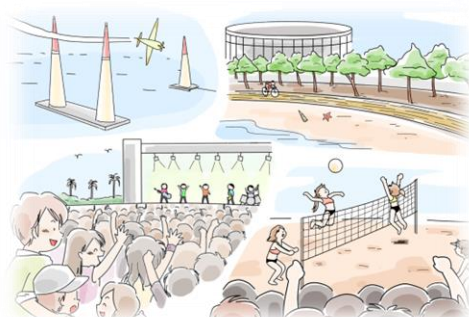


4 ピア・海上レストランの設置



5 賑わい施設の設置

7 健康と癒しをテーマとしたパッケージ・ツアーの実施



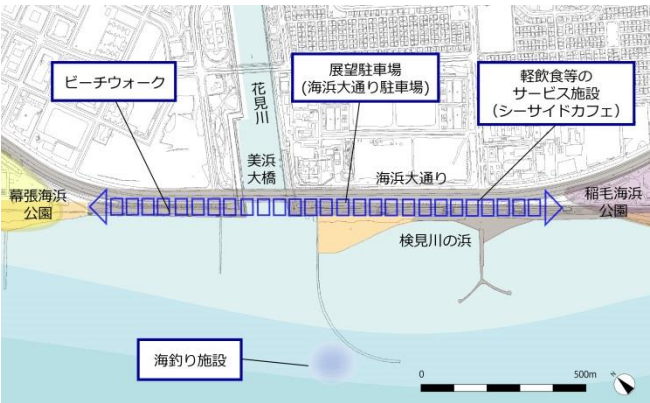
2 ビーチウォークの整備

3 ビーチラインの整備

8 ビーチイベントの開催促進

(2) プロムナードの海辺ゾーン

検見川の浜と幕張の浜、稲毛海浜公園、幕張海浜公園（D.E.F ブロック）をつなぎ、海辺エリアの一体感・連続性を形成していくうえで重要な位置にあるゾーンで、美浜大橋から望む東京湾の景観に魅了される人も多く、海辺エリアの中では屈指のビューポイントとなっています。



図V-2-2 プロムナードの海辺ゾーン

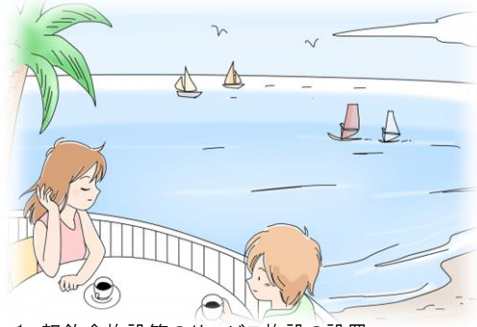
今後は、海辺エリアの回遊性を促進していくため、歩行者や自転車の利用者、ジョギングを楽しむ人が安全・快適、かつ円滑に通行することができるような稲毛～幕張をつなぐビーチウォークを形成するとともに、東京湾の眺望を楽しみながら休憩・軽飲食ができる施設の導入や、海釣りを楽しめる環境の整備について検討を進めていきます。

■主な活性化方策の例（プロムナードの海辺ゾーン）

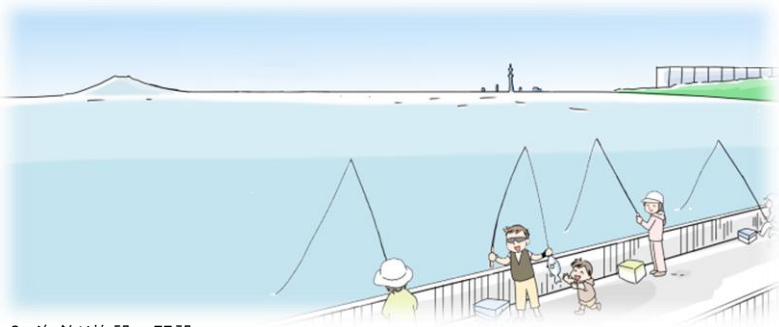
No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード （整備改修等）		ソフト （管理運営等）	
				官	民	官	民
1	軽飲食施設等のサービス施設（シーサイドカフェ）の設置	稲毛海浜公園	海辺エリア屈指のビューポイントからの東京湾の眺めを楽しめる軽飲食施設を設置するもの。		●		●
2	ビーチウォークの整備【再掲】	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	
3	海釣り施設の開設	検見川の浜	既設の堤防等を活用して海釣り可能な環境を整備するもの。	●			●
4	海辺エリアの魅力の発見・PR（写真コンクール等）の実施	海辺エリア	ダイヤモンド富士などの風景、砂浜で遊ぶ人やマリンスポーツを楽しむ人、各種フェスの賑わいなど、海辺エリアの魅力を撮影した写真を募集し、海辺エリアへの関心を高め、広くPRを行うもの。			●	●

※黄色色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト



1 軽飲食施設等のサービス施設の設置



3 海釣り施設の開設

(3) マリンスポーツの海辺ゾーン

平成 22 年の千葉国体のセーリング競技会場や大学・高校の部活動の拠点としても活用されている稲毛ヨットハーバーが立地しているゾーンで、現在、民間事業者によって東京湾を一望できるレストラン・ホールなどの施設の建設が進められています。

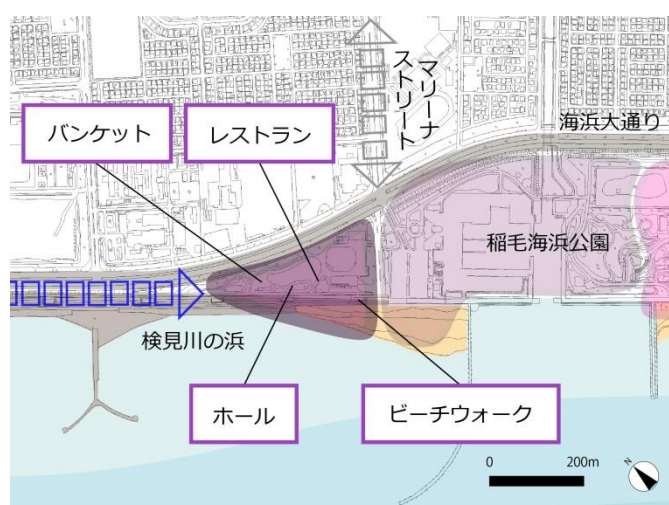
このゾーンでは、海辺のロケーションを活かしたサービスを提供する「海の催事サブゾーン」、また、ヨットを始めさまざまなマリンスポーツの体験や練習を通じて海に親しむことができる「ニューマリンサブゾーン」を設定します。

なお、海辺エリアの一体性を創出し、回遊性を促進していくためのビーチウォークの形成について検討を進めていきます。

1) 海辺の催事サブゾーン

ウインドサーフィンのメッカとして賑わう検見川の浜のマリンスポーツの風景の中で、ひととき海を身近に感じながら楽しめるゾーンとしていきます。

海辺の景観はもちろん、波の音、潮の香りなど、海辺ならではの感覚を楽しみながら、ランチやディナー、ティータイムを過ごせて、特別なイベントにも対応した空間を形成していきます。

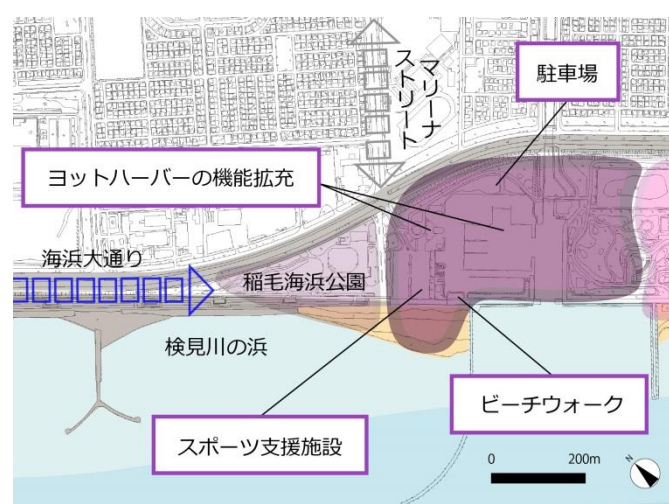


図V-2-3(1) 海辺の催事サブゾーン

2) ニューマリンスポーツサブゾーン

首都圏の中でも数少ないヨット競技が可能な施設である稲毛ヨットハーバーを拠点として、さまざまなマリンスポーツ関連機能を集約し、市民のみならず、広域からの利用者の誘致も可能な魅力的な機能を導入していくゾーンとします。

ディンギーヨットやウインドサーフィンに加え、カヌーやシーカヤック、カイトボードなど、新たなマリンスポーツでの利用の可能性について安全性等を勘案しながら促進していくとともに、ジョギングやサイクリングなどを含めたさまざまなスポーツでの利用を支援する便利施設について、需要を見極めながら導入を目指していきます。



図V-2-3(2) ニューマリンスポーツサブゾーン

また、マリンスポーツの風景を眺めながら気軽にアウトドアを楽しめるように、デイキャンプなどができる施設の導入を検討していきます。

なお、砂浜の利活用にあたっては、検見川の浜の一部で市の鳥・コアシサシの繁殖地として保護に努めていることなどから、生き物の生息環境など自然環境の保全に配慮しながら行うこと基本とします。

■主な活性化方策の例（マリンスポーツの海辺ゾーン）

No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード （整備改修等）		ソフト （管理運営等）	
				官	民	官	民
1	稲毛ヨットハーバーの機能拡充	稲毛海浜公園	ディンギーヨットのほか、さまざまなマリンスポーツの拠点として機能の拡充を進め、市民の利用や広域からの観光客も誘致し、利用者が楽しめる運営を行うもの。	●	●	●	●
2	スポーツ支援施設の整備	稲毛海浜公園	スポーツを楽しむ人向けの休憩、温浴・シャワー、用具の保管・メンテナンス等のサービスを提供する施設を整備するもの。		●		●
3	レストラン・ホールの積極的な活用	稲毛海浜公園	海辺エリアやその周辺で行われるスポーツ大会等のレセプション会場など、格式の高いイベントでの活用を進め、海辺エリアのブランドイメージの創出につなげていくもの。		●		●
4	デイキャンプ場の整備	稲毛海浜公園	マリンスポーツの風景を眺めながら、気軽にアウトドアを楽しめるように、デイキャンプ場を設置するもの。	●	●	●	●
5	ビーチウォークの整備【再掲】	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	
6	マリンスポーツの大会の誘致	検見川の浜、稲毛海浜公園	人工海浜と稲毛ヨットハーバーを活用して、従来から行われているウインドサーフィンの大会のほか、さまざまな種目の大会での利活用を行うもの。			●	●

※黄色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト



3 レストラン・ホールの積極的な活用



4 デイキャンプ場の整備

(4) 歴史と自然の海辺ゾーン

かつて稲毛や幕張の海や海岸は、海苔漁や海水浴、潮干狩り、祭礼、民間航空の飛行場など、民衆の生活と関わりが深い場所でしたが、高度経済成長期には工業用地や住宅用地の供給を目的に埋立てが行われました。

稲毛海浜公園には、埋立て前の地域の歴史を伝える稲毛記念館や稲毛民間航空記念館、埋立てによって失われた稲毛海岸の自然を復元したいなぎの浜、海辺の景観を彷彿とさせる浜の池や松林、イベントにも利用される芝生広場があります。これらの施設の機能や役割を踏まえて、地域の歴史や和の文化の保存・継承を行う「地域の歴史サブゾーン」、民衆の生活と関わりの深かったかつての海岸風景を再現し、海辺と一体となった広場空間でさまざまなレクリエーション活動を楽しめる「ニュービーチサブゾーン」、緑や花、水辺の自然とのふれあいをテーマとする「自然鑑賞サブゾーン」を設定します。

なお、海辺エリアの一体性を創出し、回遊性を促進していくためのビーチウォークの形成とともに、車の利用者が気軽に砂浜に立ち寄ることができるビーチラインの形成について検討を進めていきます。

1) 地域の歴史サブゾーン

かつての稲毛海岸の風景を現代風に再現し、地域の歴史に親しめるゾーンとします。稲毛記念館は地域の歴史・文化・生活を保存・継承していく役割を引き続き担いながら、今後は海辺の活性化に取り組む人々の交流や情報交換の拠点としての活用についても促進していきます。稲毛民間航空記念館は、民間航空発祥の地にちなむ施設としてその歴史を継承し、飛行機の原理など子どもたちの科学に対する関心を高めて、モノづくりの面白さを伝えていく役割を強化していくなどの利活用の方策について検討していきます。

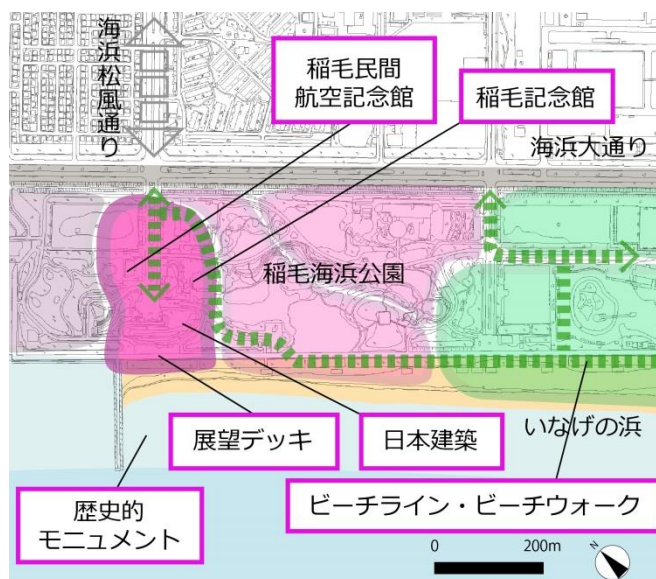


図 V-2-4(1) 地域の歴史サブゾーン

また、保養地として賑わっていた時代の海水浴場の風景を再現するため、別荘風旅館であった海気館をモチーフとした日本建築や、かつて生活と関わりの深かった海の風景を象徴していた稲毛海岸の鳥居を現代風にイメージさせる歴史的モニュメントの設置などによって、既存の海星庵（茶室）や日本庭園とともに和の文化を表象するエリアの形成を目指していきます。

2) ニュービーチサブゾーン

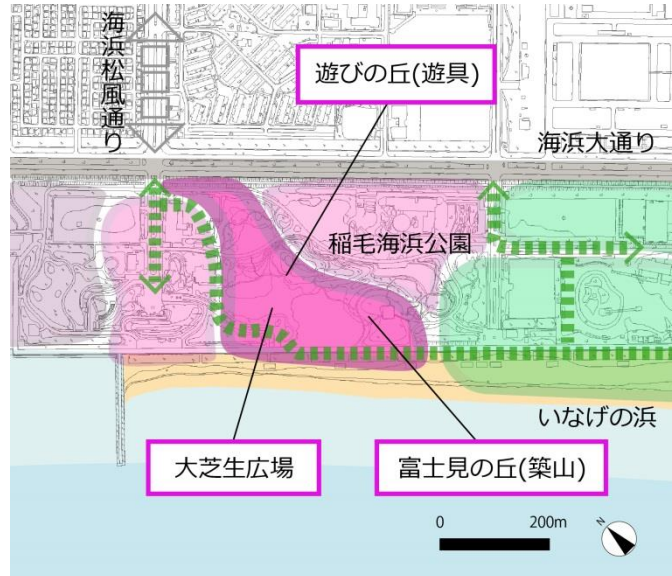
砂浜と大芝生広場が一体的な空間を形成し、さまざまなレクリエーションが楽しめて、大小さまざまなイベントも開催できる開放感にあふれたゾーンとします。

防風防砂林や公園の樹林については、樹木の健全な生育や周辺環境にも配慮しつつ、園内から海を眺められて海との連続性を感じられるよう植栽の再整備を進めていきます。

特に大芝生広場は、海との一体感・連続性を確保するため、アイレベルで海を見通せるようにす

るとともに、東京湾の海の広がりや富士山などの眺望が楽しめる新たな公園のシンボルとして、子どもの遊び場を併設した富士見の丘（築山）の整備を検討していきます。

また、いなげの浜での自然観察会や自然体験など、海辺の自然に親しみながら守り育むことの大切さを広めていく取組みを進めていきます。



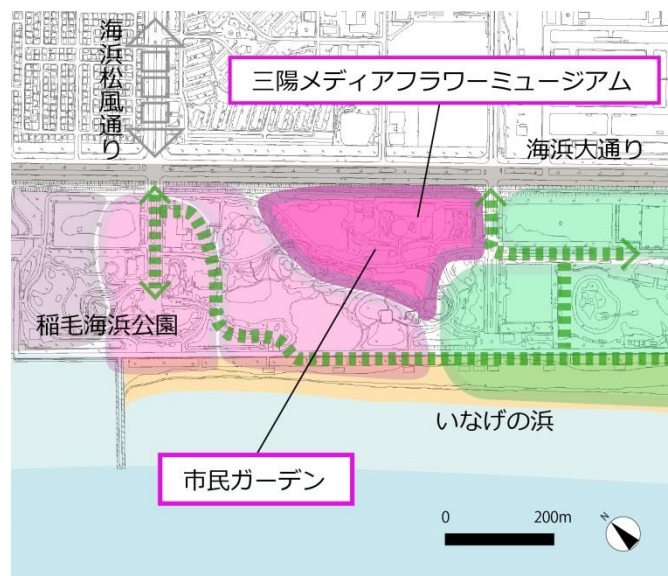
図V-2-4(2) ニュービーチサブゾーン

3) 自然観賞サブゾーン

市民が植物や花の観賞を楽しみながら花き栽培やガーデニングなどの知識を習得するとともに実践する場を提供することで、緑と水辺のまちづくりを推進する拠点としての機能を持ったゾーンとしていきます。

三陽メディアフラワーミュージアムは、都市緑化の普及啓発の拠点施設としての機能を充実させ、浜の池やその周辺では、四季折々の花々や紅葉木の鑑賞、野鳥等とのふれあいを楽しむことができる場所としていきます。

また、三陽メディアフラワーミュージアムの機能を活かして、市民が自ら花壇の整備やガーデニングなどができる施設の導入についても検討していきます。



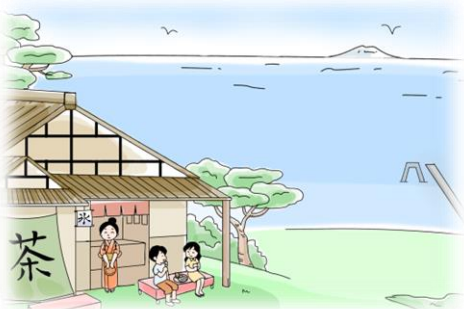
図V-2-4(3) 自然鑑賞サブゾーン

■主な活性化方策の例（歴史と自然の海辺ゾーン）

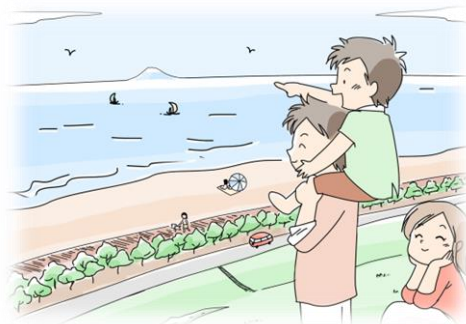
No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード （整備改修等）		ソフト （管理運営等）	
				官	民	官	民
1	明治時代の海岸風景を醸し出す日本建築の設置	稲毛海浜公園	かつて保養地や海水浴場として賑わっていた風景を再現するため、海気館をモチーフとする日本建築による便益・休憩施設を設置するもの。（宿泊機能も視野に入れ検討）		●		●
2	歴史的モニュメントの設置	いなげの浜	かつて生活と関わりの深かった海の風景を象徴していた稲毛海岸の鳥居を現代風にイメージさせるモニュメントを設置するもの。	●	●	●	●
3	富士見の丘（築山）の整備	稲毛海浜公園	東京湾や富士山、東京都心の高層ビル群などの景観を一望できる展望台を整備するもの。	●		●	
4	市民ガーデンの設置	稲毛海浜公園	三陽メディアフラワーミュージアムの附属施設として設置し、まちづくり団体等が花の栽培やガーデニングを行い、一般の鑑賞に供するもの。	●	●		●
5	ビーチウォークの整備【再掲】	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	
6	ビーチラインの整備【再掲】	幕張海浜公園 稲毛海浜公園	自動車の利用者が、気軽に砂浜に立ち寄って海辺の景観を楽しむことができるよう、海辺に直接アクセスできる車両通行可能な園路や短時間利用の駐車場を整備するもの。	●		●	
7	稲毛記念館の展示機能の強化	稲毛海浜公園	稲毛や検見川、幕張の海に関する自然・歴史・文化・生活などに関する話題をさまざまな切り口から紹介する企画・展示を行うもの。			●	●
8	子どもの科学教室	稲毛海浜公園	民間航空発祥の地としてのアイデンティティを継承し、飛行機の原理など科学に対する子どもたちの関心を高めて、ものづくりの面白さを伝えていくためのプログラムの強化を行うもの。			●	●
9	日本の伝統文化体験ツアー	稲毛海浜公園	和のイメージエリアの中で、茶道や書道、園芸・盆栽、武術の手ほどきや変身体験など、日本の伝統文化を楽しみながら体験できるツアーを開催するもの。			●	●
10	回遊型フラワーイベントの開催	稲毛海浜公園 幕張海浜公園	市民ガーデンを拠点として、まちづくり団体等との連携・協力により、海辺エリア全体を会場として活用しフラワーイベントを開催するもの。			●	●
11	海辺のプレーパークの開設	稲毛海浜公園	海辺の砂浜や海岸林、公園などを活用して、子どもたちの自由な発想で冒険的な遊びが可能な遊び場を設置するもの。（潮干狩り場などの可能性も検討）			●	●
12	自然観察会の開催	稲毛海浜公園	海辺エリアの砂浜や生き物などの自然観察会を開催し、公園利用者や子ども達に自然について考えながら親しむ場や機会を提供するもの。			●	●

※黄色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト



1 明治時代の海岸風景を醸し出す日本建築の設置



3 富士見の丘(築山)の整備



4 市民ガーデンの設置
10 回遊型フラワーイベントの開催



11 海辺のプレーパークの開設
12 自然観察会の開催

(5) ファミリーレジャーとスポーツの海辺ゾーン

稲毛海浜公園プールやいなげの浜、野球場・球技場（サッカー）・テニスコート・屋内運動場などが配置されており、主にファミリーやサークルなどを対象とする遊泳やメジャースポーツなどのスポーツ・レクリエーションを楽しむことができるゾーンです。

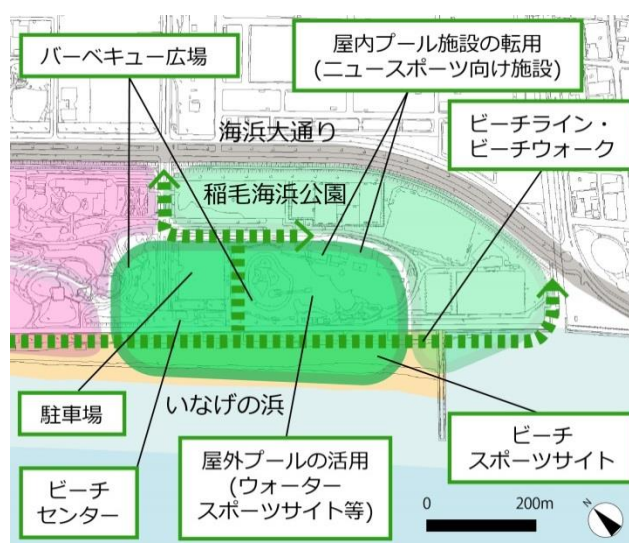
このゾーンでは、稲毛海浜公園プールといなげの浜からなる多機能プールサブゾーンと、さまざまなスポーツ施設からなるスポーツサブゾーンを設定します。

なお、海辺エリアの一体性を創出し、回遊性を促進していくためのビーチウォークの形成とともに、車の利用者が気軽に砂浜に立ち寄ることができるビーチラインの形成について検討を進めていきます。

1) 多機能プールサブゾーン

稲毛海浜公園プールは、県内最大級のレジャープールで、年間約 22 万人（平成 26 年度）が利用する公園内で最も人気のある施設です。また、いなげの浜は東京都心から最も近い海水浴場で、夏季にはプールと一体的に利用して遊泳を楽しめるほか、ビーチバレーのコートが整備されています。

今後は、稲毛海浜公園プール・いなげの浜での遊泳のほか、アウトドア・レクリエーションの場としての活用を進めていくものとし、バーベ



図V-2-5(1) 多機能プールサブゾーン

キュー場については海辺の景観を楽しみながらその季節ならではの食を楽しめるよう運営面での質の向上に取り組んでいくとともに、ビーチバレーをはじめとしてさまざまなビーチスポーツに対応していくなど、新たな砂浜の活用についても検討していきます。

また、プール施設については、現在のレジャープールとしての機能も確保しながら、屋内プールや管理棟の一部についてはフットサルやソフトバレー、バウンドテニス、ボルダリングなどのニュースポーツを導入していくことや、屋外プールについてはカヌー・カヤック、ラフティング、ボード系スポーツ等の体験や練習、フィッシングポンド、イルミネーションイベントなどオフシーズン中の活用方法と改修・整備も視野に入れた新たな魅力づくりを民間事業者との連携によって検討していきます。

なお、ビーチセンターについては、売店やバーベキュー施設の管理など、公園や砂浜の利用者向けのサービス拠点として活用していきます。

2) スポーツサブゾーン

野球場・テニスコート・屋内運動場などの施設をはじめ、2002 年日韓共催ワールドカップ(平成 14 年)の際にキャンプ地として整備された球技場(サッカー用ピッチ)、多目的広場(サブピッチ)があります。野球場・テニスコートは市民に日常的に利用されるスポーツ施設で、現在の利用状況を勘案し、引き続き市民の余暇生活の充実や健康づくりを支える公園施設としての機能を維持していきます。

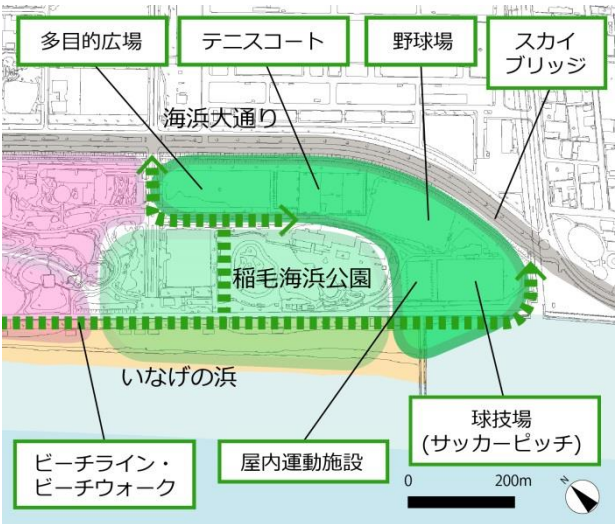


図 V-2-5(2) スポーツサブゾーン

既存の施設の更新や改修等を行う際には、利用者のニーズを勘案しながら新たな種目の導入についても検討していきます。多目的広場については、砂浜への自動車によるアクセス性の向上を目的としたビーチラインの導入の際、既存の駐車場との配置替えを行うとともに、多様な世代が気軽にスポーツを楽しみながら交流が行えるよう、ターゲットバードゴルフやペタンク、インディアカなどのニュースポーツの導入について検討していきます。

なお、隣接する千葉市地方卸売市場に常設の一般向け物販施設などが導入されるなど、稲毛海浜公園との相互利用によって双方の利用増進が見込まれる場合には、歩道橋の設置など移動が円滑に行われる方策について検討していきます。

■主な活性化方策の例（ファミリーレジャーとスポーツの海辺ゾーン）

No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード (整備改修等)		ソフト (管理運営等)	
				官	民	官	民
1	屋外プールの活用 (ウォータースポーツサイトの開設等)	稲毛海浜公園	稲毛海浜公園プールの夏季以外の活用方法として各種ウォータースポーツに対応したサービスを提供するもの。		●		●
2	屋内スポーツ施設への転用(ニュースポーツ向け施設)	稲毛海浜公園	稲毛海浜公園プールの改修に合わせ、需要を見極めながら屋内プール施設を多様な世代の利用に対応したニュースポーツが可能なインドアスポーツ施設に転用するもの。		●		●
3	ビーチスポーツサイトの開設	稲毛海浜公園	砂浜の新たな活用方法として、ビーチバレーやビーチサッカーなど各種ビーチスポーツを日常的に楽しめて、大会の開催にも対応した環境を整備するもの。		●		●
4	スカイブリッジの整備	稲毛海浜公園 千葉地方卸売市場	地方卸売市場に常設の一般向け施設等が導入されるなど、稲毛海浜公園との相互利用が見込まれる場合に歩道橋を整備するもの。	●		●	
5	ビーチウォークの整備【再掲】	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	

No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード (整備改修等)		ソフト (管理運営等)	
				官	民	官	民
6	ビーチラインの整備 【再掲】	幕張海浜公園 稲毛海浜公園	自動車の利用者が、気軽に砂浜に立ち寄って海辺の景観を楽しむことができるよう、海辺に直接アクセスする車両通行可能な園路や短時間利用の駐車場を整備するもの。	●		●	
7	稲毛海浜公園プールの 通年利用	稲毛海浜公園	カヌーやボディボード等のウォータースポーツの体験・練習、プールサイドでのイルミネーションイベントの開催など、通年で利用を行うもの。			●	●
8	都市型サマーキャンプの開催	いなげの浜 稲毛海浜公園	大学等と連携し、子どもの国際交流を目的に、砂浜を活用したスポーツ・自然体験等のサマーキャンプを行うもの。			●	●

※黄色色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト



1 屋外プールの活用
(ウォータースポーツサイトの開設等)



3 ビーチスポーツサイトの開設

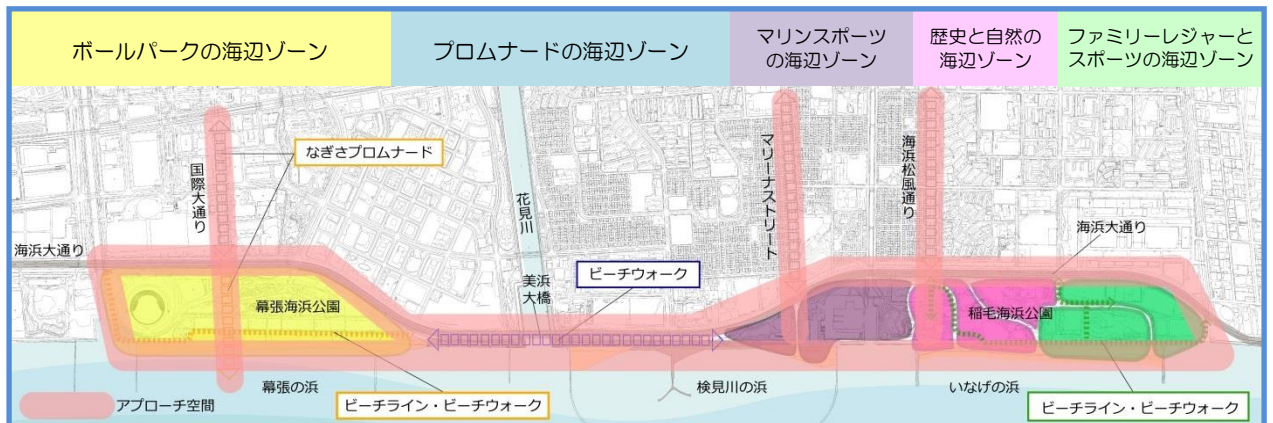


8 都市型サマーキャンプの開催

（６）海辺へのアプローチ空間

１）海辺エリアへのアクセス性の向上

海辺エリアへのアプローチ空間として、市街地の中にいながら海を感じられる演出や、アクセスの利便性を高めていくエリアです。稲毛海岸駅から歴史と自然の海辺ゾーンに接続する海浜松風通り、また検見川浜駅からマリンスポーツの海辺ゾーンに接続するマリナーナストリート、海浜幕張駅からボールパークの海辺ゾーンに接続する国際大通り、海辺エリアを東西に連絡する海浜大通りがあります。



図V-2-6 海辺のアプローチ空間

海浜松風通りやマリナーナストリートについては、沿道の住宅系の土地利用に留意しながら、街路樹の植栽の樹種などを工夫された海辺まで続く通りに、潮の香りを感じながらひと息つくことができるオープンカフェや、マリンスポーツなど海辺ならではの落ち着いた街並みの形成を促進していくとともに、鉄道駅から海辺エリアまでの公共交通の充実を進めていきます。

国際大通りについては、海浜幕張駅から海辺エリアまでのアプローチ空間として、幕張新都心業務中心地区やタウンセンター地区など沿道の民間敷地を活用したイベントやオープンカフェなどの賑わいに満ちた街並みを形成していくとともに、砂浜やその先のピアまで続く公園内の歩行空間と連続するなぎさブロムナードの形成について検討していきます。

海浜大通りについては、海辺エリアを東西につなぐ幹線ルートとして位置づけ、バスなどの公共交通の充実を進めるとともに、歩行空間としてのビーチウォークや、車の利用者が気軽に砂浜に立ち寄ることができるビーチラインなどの形成について検討していきます。

2) 千葉都心・蘇我副都心との連携

海辺の活性化にあたっては、千葉都心の千葉中央港地区や、蘇我副都心の蘇我地区との相互のアクセス性を向上させるとともに、それぞれの港で進めているまちづくりとの連携を進め、海辺エリアのアーバンビーチとみなとまちづくりの2つの海辺の魅力を楽しむことができる工夫を行います。

アクセス性の向上については、当面はバス交通による連絡強化に努めるものとし、将来、需要の高まりを見極めたうえで BRT や LRT などの新交通システムの導入の可能性や、千葉中央港地区の旅客船桟橋や幕張の浜の桟橋、稲毛ヨットハーバーなどを活用した水上バスなど海上交通の導入についても検討していきます。

■主な活性化方策の例（海辺へのアプローチ空間）

No.	名称	実施場所	プロジェクトの概要	ハード (整備改修等)		ソフト (管理運営等)	
				官	民	官	民
1	なぎさプロムナードの形成【再掲】	国際大通り沿道 幕張海浜公園 幕張の浜	市街地と海辺エリアの一体性と回遊性を創出するための連続的なアプローチ空間を形成していくもの。	●	●	●	●
2	ビーチウォークの整備【再掲】	海辺エリア	3つの人工海浜をひとつなぎにする歩行者・自転車用のボードウォークを設置するもの。	●		●	
3	ビーチラインの整備【再掲】	幕張海浜公園	自動車の利用者が、気軽に砂浜に立ち寄って海辺の景観を楽しむことができるよう、海辺に直接アクセスできる車両通行可能な園路や短時間利用の駐車場を整備するもの。	●		●	
4	オープンカフェの開設	国際大通りなど	沿道の公開空地などのオープンスペースや幅員の広い歩道を活用してオープンカフェを設置し、歩いて楽しい空間を演出するもの。			●	●
5	オープンバス、パークトレインによる海辺エリアの周遊	海辺エリア	回遊型フラワーイベントの開催などとあわせて、アミューズメント性を加えたアクセス手段を導入することで、海辺エリアの回遊性創出を促進するもの。			●	●

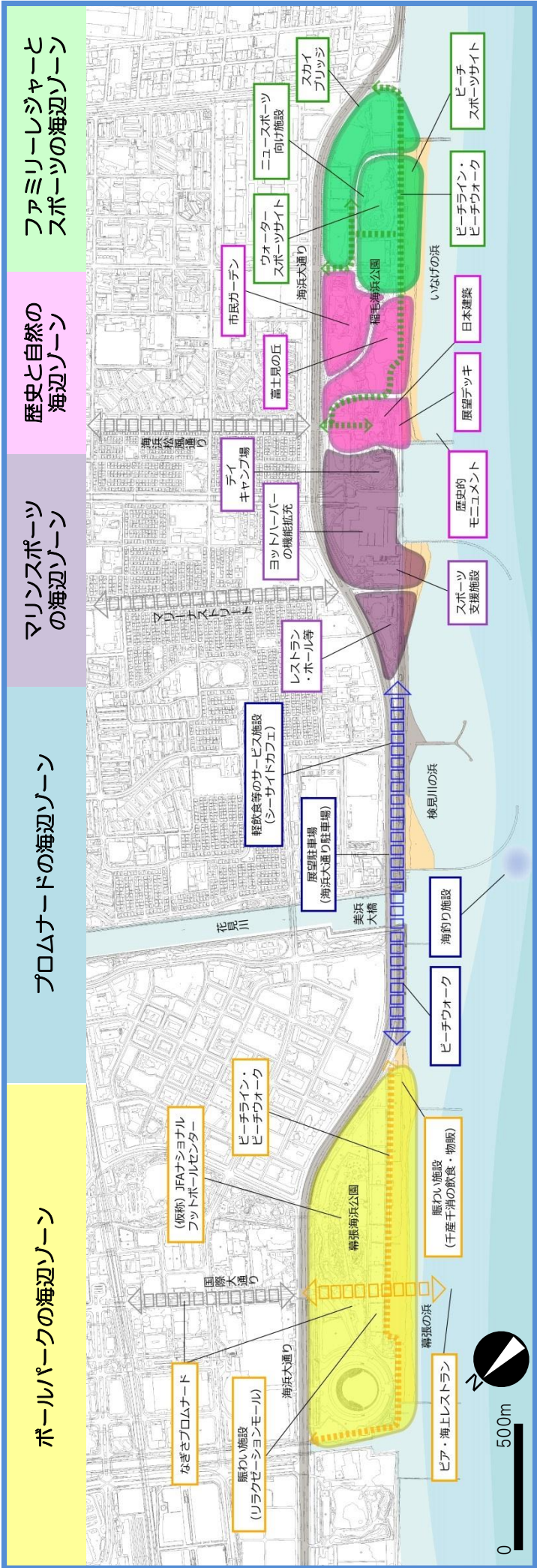
※黄色の網掛けは、ソフト事業もしくはソフト事業が中心の方策です。

活性化方策の例のイメージイラスト



2 ビーチウォークの整備
3 ビーチラインの整備

■ 各ゾーンに新たに導入する機能のイメージ（まとめ）



※帯張海浜公園・幕張の浜・検見川の浜は千葉県が管理する施設であり、記載の内容については千葉県独自の提案として取りまとめたものです。

図V-2-7 各ゾーンに新たに導入する機能のイメージ（まとめ）

VI

海辺のグランドデザインの実現に向けた取組み

1 基本的な考え方

海辺を活かしたまちづくりにあたっては、V章に示した活性化フレームに基づいて、社会経済情勢等の変化に的確に対応しながら、次の3つの視点を軸に据えて取り組んでいきます。

視点1 民間活力の導入

- ・ レジャープールやカフェなど、民間事業者の優れた経営ノウハウ・技術力・資金力を活かすことでより質の高いサービスが提供でき、その収益を新たな魅力づくりに活かすことが期待されるため、積極的に民間活力を導入していきます。

新規施設の導入

- ・ 設置許可・PFI 制度の活用

既存施設の拡張・改修

- ・ 管理許可・指定管理者制度の活用

施設の効率的な運営

視点2 既存ストックの活用

- ・ 新たな機能を導入していく場合には、既存の施設を最大限活用していくことを基本としながら、各施設の持つ機能を有機的に連携させて、相互に魅力を高めていきます。

既存ストックの有効活用

- ・ 施設長寿命化による保全推進
- ・ デザインの統一など

周辺施設との連携

- ・ 千葉中央港地区、千葉市地方卸売市場、大規模商業施設等の周辺施設との連携による活性化方策の実施

視点3 参画の促進と支援

- ・ 主体的に活性化の取組みを行う団体に対する支援策を検討していきます。
- ・ 活動の発意や参加意欲を高めるため、表彰・認定制度の導入や、活動団体のPRなどの情報発信を行います。

まちづくりの活動支援

- ・ 活動の表彰制度やボランティア認定制度の導入
- ・ 支援策の検討

情報発信

- ・ 活動団体と活動内容のPR

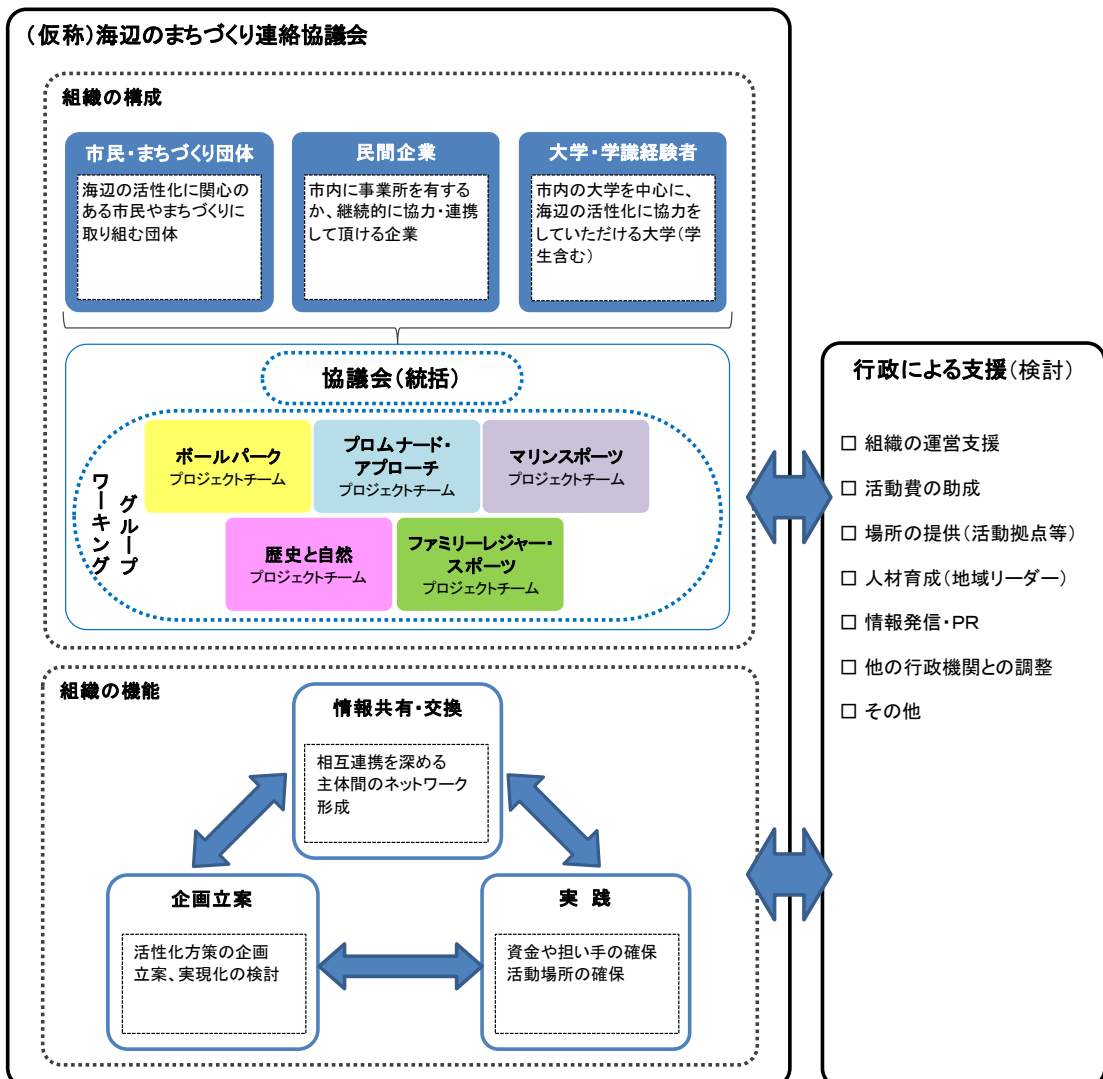
2 海辺の活性化を推進する体制・しくみの整備

1) 庁内の推進体制

- ・ まちづくりの取組みを推進していくため、海辺のグランドデザインに即した稲毛海浜公園の再整備に関する基本計画の策定や、千葉県の管理施設における活性化方策の具体化・事業化に向けた協議・調整を進めていきます。
- ・ また、新たな機能の導入にあたっては、民間活力を積極的に活用していくため、企業等の起業に関するニーズの把握・分析に努めながら、庁内関係課・関係機関との協議・調整のうえ、官民連携による整備や管理・運営のスキームの構築を進め、事業化に努めていきます。

2) 海辺エリアのマネジメント組織の設置

- ・ まちづくりの取組みを推進していくため、市民や企業・団体、行政機関（道路、公園、港湾などの管理者）で構成し、活性化の取組みについて情報の共有や企画立案、連絡調整などの役割を担う「(仮称)海辺のまちづくり連絡協議会」の設置を検討していきます。



図VI-1 (仮称)海辺のまちづくり連絡協議会の組織イメージ

3) 自主的な活性化の取り組みの促進

- ・ 市民やまちづくり団体等による自主的な取り組みを促進するため、まちづくりの功労者の表彰や、卓越した能力を有する人材を地域リーダーとして認定し、まちづくりの発意を高めていくしくみについて検討していきます。
- ・ また、まちづくり活動に取り組む市民やまちづくり団体等の意欲を高めて活動の拡大や新たな展開を促進するため、テレビ・ラジオなどの放送、インターネット、広報等多様な媒体を活用した情報発信を行い、海辺エリアへの集客力を高め、海辺エリアのファンの拡大を目指していきます。

3 活性化の取り組みの進め方

海辺の活性化に向けたまちづくりの取り組みについては、官民連携のもと段階的に進めて行くことを基本とし、Ⅴ章で示したゾーンごとの活性化方策については、実現性や期待される効果、社会経済情勢の変化、利用者のニーズ、民間事業者の意向などを勘案しながら、実現に向けて検討を進めていくものとします。

参考資料

1 用語集

50音	用語	掲載頁	説明
あ	アーバンビーチ	P13 P45	必ずしも泳ぐことを目的としていない人工的に整備されたビーチのこと。欧米諸国で人気があり、音楽やビーチスポーツ等のイベントが開催されるもの、またレストランやバー等の飲食施設を設置するものなどがある。
	アフターコンベンション	P32	会議や研修、見本市などの大規模な催し（コンベンション）終了後の懇親会や観光等のこと。参加者に地域をPRするため、開催地の地域を巡るツアーや体験プログラムなどが組まれるケースが増えている。
	エリアマネジメント	P8 P21	美しい街並みの形成や人をひきつけるブランド力の形成等、地域における良好な環境や価値の維持・向上を目的とした、市民や民間事業者等による主体的・自立的な取り組みのこと。
	LRT (エル・アール・ティー)	P28 P45	専用の軌道上を低床式車両が走行する次世代型交通システムのこと。乗降の容易性・定時制・速達性・快適性などの点で優れている。モータリゼーション化や鉄道網の発達とともに路面電車は廃止されてきたが、近年は、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されている。LRTは、Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）の略。
か	グランドデザイン	P1 他	長期的かつ包括的な観点から理念や将来像、進むべき方向性を示した総括的な構想のこと。
	コミュニティサイクル	P7 P28	特定の地域内で自転車を共有するしくみやサービスのこと。利用者は、地域内に複数設置されたとの貸出拠点（ポート）においても自転車の借受け・返却ができる。
さ	スカイウェイ	P7 P32	千葉県企業庁が幕張新都心の一部の地区で推進して民間が整備している立体的な歩行空間のこと。立体的に歩車分離を行い、快適性や回遊性のある歩行空間を形成することを目的としており、土地所有者等は建物の整備とあわせて歩道橋や隣地の施設と連続させて整備しネットワークを形成している。
	スカイライン	P7	山や高層建築物などが空に描く輪郭線のこと。都市によってそれぞれ特徴が異なることから地域固有の景観として考えられている。
た	デイキャンプ	P35 P36 P51	日帰りで行うバーベキューなどの野外活動で、アウトドアを気軽に楽しむことから人気が高い。
	ディンギーヨット	P35 P36	マスト1本、帆1枚で構成され、船室を持たない長さ4メートル程度の小型ヨットのこと。大学・高校等が参加するヨット競技のほとんどはディンギーを使用している。
な	ニュースポーツ	P32 P41 P42	柔軟なルールと適度な運動量を備え、性別や年齢にかかわらず誰もが楽しめて、競技性よりも楽しさを重視して考案されたスポーツのこと。ペタンク（鉄製のボールを投げて、相手よりも木製の目標球に近づけるスポーツ）やインディアアカ（羽根のついたボールをネット越しに素手で打ち合うスポーツ）などがある。
は	BRT (ビー・アール・ティー)	P28 P45	複数の車両を連結したバスが専用レーンや専用道路を走行することで大量輸送と定時運行を実現する交通システムで、バス高速輸送システムとも呼ばれる。鉄道よりも低コストかつ短期間で整備が可能な点がメリットと言われている。BRTは、Bus Rapid Transit（バス・ラピッド・トランジット）の略。
	プレーパーク	P39	子どもたちが自分の責任で自由に遊べるよう禁止事項をできる限りなくし、工具や自然の素材等を使って自分のしたいことを実現できる遊び場のこと。プレーリーダーと呼ばれる大人が常駐し、子どもの興味や関心を引き出すための環境づくりや声掛け、見守りなどの役割を担っている。
ら	ライフスタイル	P12 他	社会的・文化的・経済的な条件に基づく生活の状態・様式のこと。海辺のグランドデザインでは、海辺エリアが都市生活をおくる人々が、そのライフスタイルのワンシーンとなるような活用を進めていくこととしている。
わ	ワンストップ化	P54	複数のサービスが1か所で一括して受けられるようにすること。

2 アンケート調査結果概要

稲毛・幕張海辺エリアに対する評価とともに、今後充実を望む施設や参加したいイベント等のニーズを把握するため、アンケート調査を行った。

(1) 稲毛海浜公園に関するアンケート調査

【調査方法】 千葉市インターネットモニターアンケート（ウェブアンケート）による

【調査期間】 平成 26 年 11 月 1 日～7 日

【サンプル数】 4,055 人（モニター登録している千葉市民）

【回答者数】 1,290 人（回答率 31.8%）

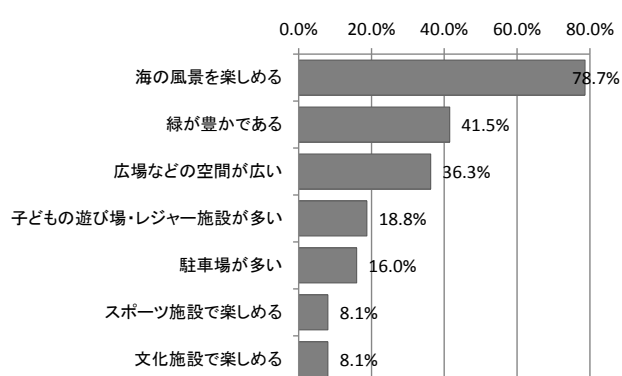
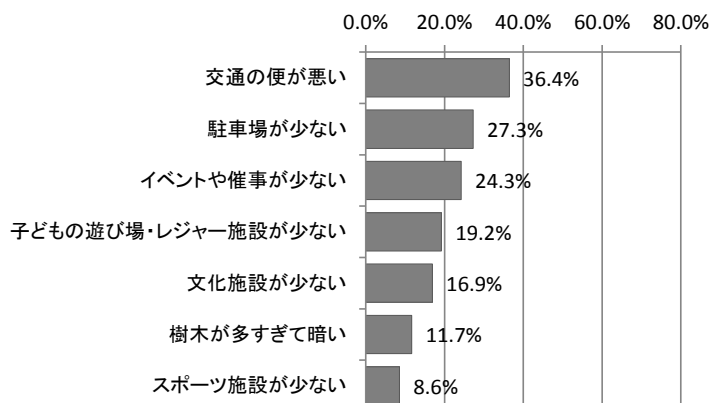


図 1 公園の良い所



（良い所、悪い所ともに回答が多かった選択肢の上位 7 位までを抜粋）

図 2 公園の悪い所

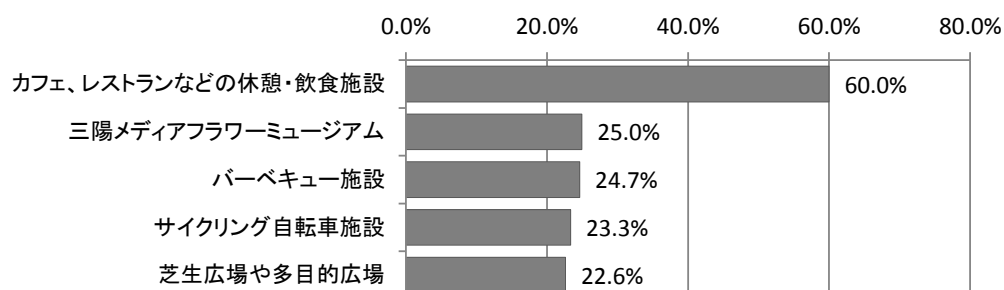


図 3 より充実を望む施設（回答が多かった選択肢の上位 5 位までを抜粋）

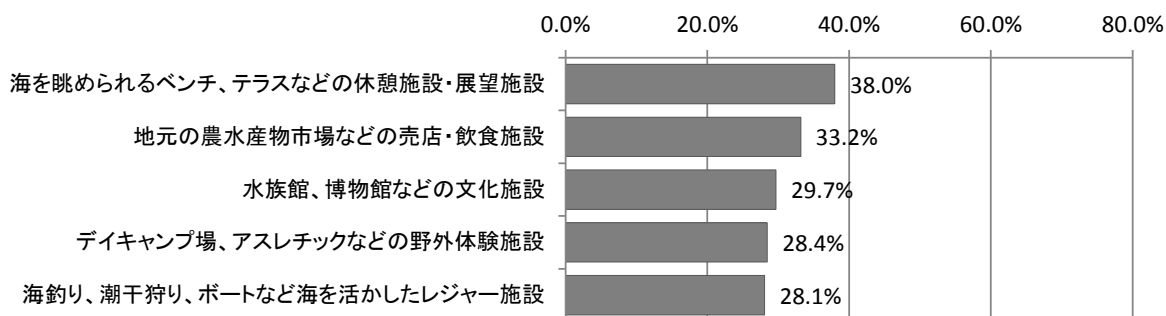


図 4 あったら良いと思う施設（回答が多かった選択肢の上位 5 位までを抜粋）

《稲毛海浜公園から幕張海浜公園（D.E.Fブロック）にかけての海や砂浜でどのように楽しみたいかについて（自由回答）》

- ・ 海を見ながら散歩したり、カフェやレストランで食事をしたり、くつろいでのんびりとした時間を過ごしたいという主旨の意見が多くを占めた。
- ・ 遊びやレジャーに関しては、水遊びや釣り、潮干狩り、ヨットやカヌーなどのマリンスポーツなどの海に関するものや、子どもを遊ばせる、デイキャンプ、バーベキュー、サイクリング等が挙がっている。

（２）幕張海浜公園（D.E.Fブロック）に関するアンケート調査

【調査方法】 海浜幕張駅前及び幕張海浜公園（D.E.Fブロック）での対面式アンケート調査

【調査期間】 平成 26 年 12 月 22、23、28 日、27 年 1 月 10、12 日

【サンプル数（回答数）】 通行人・公園利用者 410 人

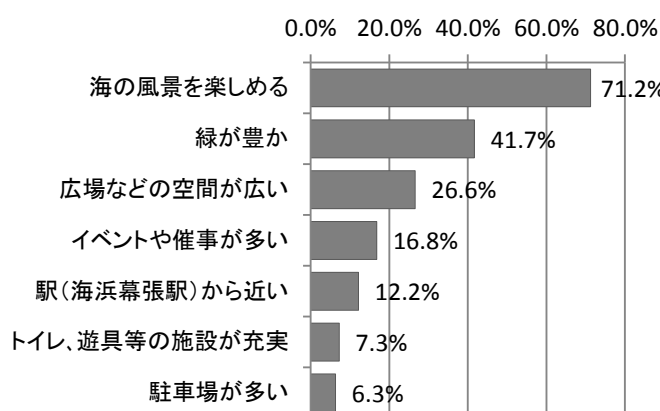


図 1 公園の良い所

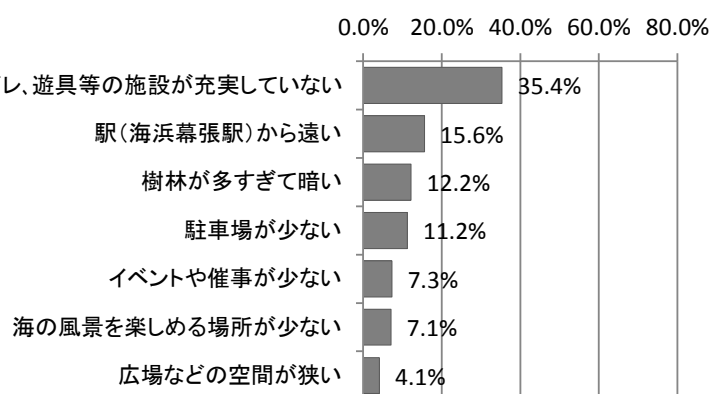


図 2 公園の悪い所

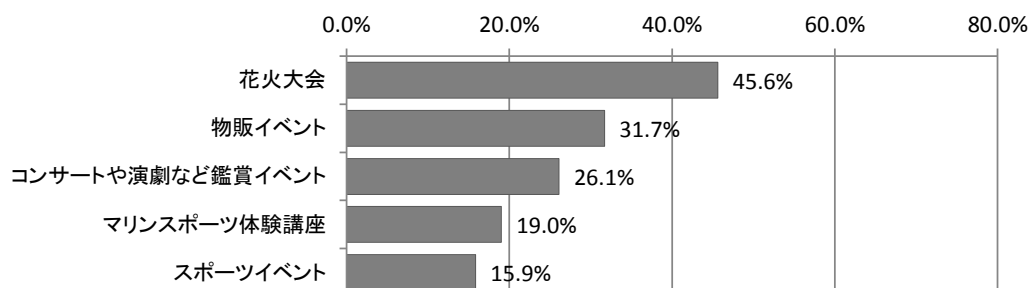
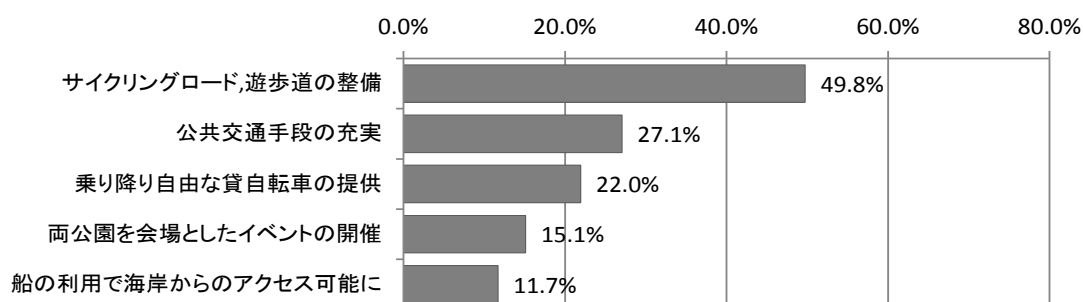


図 3 参加したいイベント（回答が多かった選択肢の上位 5 位までを抜粋）



（良いと思われる方策について、回答が多かった選択肢の上位 5 位までを抜粋）

図 4 幕張海浜公園と稲毛海浜公園の相互利用を進める方策について

■ 2つのアンケート結果における主要な意見

- ・ 海辺の景観や空間の広がりを楽しみたい、くつろぎながら楽しみたいという意見が多い。
- ・ カフェやレストラン等、飲食や物販の施設を求める意見が多い。
- ・ 稲毛海浜公園は、駅からの交通アクセスの充実（自転車、バス等）や駐車場の整備による利用しやすさの向上が求められている。
- ・ 幕張海浜公園（D.E.Fブロック）は、園内の看板や情報提供の充実やトイレ、休憩施設等の充実が求められている。

3 市民ワークショップ結果概要

20～30 年先を見据えた将来像の検討にあたり、稲毛・幕張海浜エリアで、市民がどのようなライフスタイルの実現を望んでいるかを把握して反映することを目的に市民ワークショップを開催した。

(1) 開催概要

【参加者】 公募市民（12 名）、対象地内で活動するまちづくり団体（12 名） 合計 24 名

【開催日時】 下記のとおり（各日とも 13～16 時に実施）

【実施方法】 4 班に分かれて、以下の内容についてグループワークと発表、意見交換を実施

開催日時	第 1 回 (平成 26 年 12 月 7 日)	第 2 回 (平成 26 年 12 月 21 日)	第 3 回 (平成 27 年 1 月 18 日)
実施概要	20～30 年後の理想のライフスタイルを物語にしよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・主人公が、公園や地域によって悩みを解決して幸せになる物語をつくる。 	理想のライフスタイルを実現する空間をつくろう！ <ul style="list-style-type: none"> ・将来、求められる機能やサービスの配置を地図上に示す。 	理想のライフスタイルを実現するための具体的な取組みについて考えよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・将来像の実現化の方法や各取組みの優先順位を定める。
成果	・求められるサービスや機能を抽出	・機能配置に関する意見を抽出	・行政、事業者、市民の役割分担や優先順位について意見を抽出
開催の様子			
グループワークの結果	 <p>【第 1 回】 物語づくりのシート</p>	 <p>【第 2 回】 空間づくりのマップ</p>	 <p>【第 3 回】 役割や連携のアクションシート</p>

(2) 各班の結果概要（第1回～第3回の結果総括）

班	主人公	将来像	施設やサービスの配置やアイデア	役割分担や連携
1班	シニア夫婦	シニアが活動する自然豊かな癒しの海辺があるまち	幕張から稲毛まで樹林や海への自然がゆっくりと快適に楽しめる公園があるまち Point 幕張～稲毛の公園に四季を通して自然を楽しめる場を充実 Point 幕張～稲毛に点在するインフォメーションを設置（サイクルステーション含む） Point エコな乗り物で海辺の移動を楽しむ	・協議会のような全体の話し合いの場が必要 ・朝市などのイベントを充実させて利益を公園に還元する
2班	若手会社員	海にすぐ行ける自然と利便性が調和したまち	幕張を中心に飲食施設やイベントが充実していて人と人の交流機会が高まるまち Point 幕張には人が集まるエンターテインメントを充実 Point 稲毛～検見川～幕張の回遊性を高める Point 検見川の浜はゆったりしたデートスポット（景観や雰囲気を楽しめる） Point 多様な情報発信で交流を促進	・イベントの調整役として地元事業者を育て、地元が関わる体制づくり
3班	子育て夫婦	地域資源と民間の力を活用した親子で楽しめるまち	民間の力も取り込んで、親子でも気軽にマリンレジャーや環境学習に親しめるまち Point 海辺の自然などの地域の資源を有効に活用する Point 民間の事業アイデアを活かす Point 親子で手ぶらで訪れてサイクリングやマリンレジャーが楽しめる	・パークセンターを設置してルールの統一や相談窓口を一括化 ・事業者や市民も含めた渚交番を整備し、海辺の安全を管理
4班	観光客	東京湾随一の海を体験できるまち	海を楽しみたい観光客がさまざまなマリンスポーツを楽しめるしくみのあるまち Point マリンスポーツに親しめる場を充実（ウインドサーフィンや釣り、打瀬船の展示） Point 市民がレジャーのインストラクターとして活躍 Point 植栽やデッキで海辺へのアプローチの魅力を高める	・マリンスポーツについてワンストップ化が図れるように連携して運営する体制づくり

■ワークショップにおける主要な意見

- ・ マリンスポーツや、海の景色を楽しめる場があると良い。
- ・ カフェやレストランなどゆっくりとくつろぎながら海の風景を楽しむ場があると良い。
- ・ 人が集まり、コミュニケーションが生まれる場であると良い。（ボランティアやサークル活動等）
- ・ 道の駅のような千葉市を始め、千葉県の特産品を販売したり食べられる場があると良い。
- ・ 行政や事業者、市民が連携して、公園管理やレジャーを提供する体制づくりが必要である。

4 市民意見募集で寄せられた提案

平成 27 年 10 月 1 日から 31 日までの期間、海辺のグランドデザイン（素案）への意見募集を実施した。頂いたご意見・ご提案のうち、本文に盛り込んだもの以外で、今後海辺の活性化の具体的な方策を検討する際に参考とさせて頂きたいご提案を掲載している。

※同じ内容の提案はまとめて記載。

(1) 具体的な方策

1) 自然環境について

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	美しい海の近くに住むことにかかるライフスタイルの実現	海の水質浄化や清掃等、海を青く透明にする活動を実施するとともに、美しい海の近くに住むことにかかるライフスタイルのアイデアを集めて実現する。これらの提案を実践することで、提案者をはじめ世界中から人が集まるようになることを期待する。		●

2) 景観・海の見通しについて

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	潮風に強い樹種の植栽	ヤシなどの潮風に耐性のある樹木を街路樹として植栽して、緑豊かな道路空間を維持する。	●	
2	海への小道の整備	幕張海浜公園から幕張の浜へ通じる小道を、ハワイのランカイビーチのように整備する。	●	
3	稲毛海岸周辺の景観などを維持活用したアピール	稲毛海岸周辺のエリアの景観など現状の魅力を外部へアピールして来訪者や移住者を増やす。なお、騒音の少なくなるようなまちづくりにも配慮する。		●

3) アクティビティについて

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	海に見えるスポーツジムの設置	「スポーツ支援施設」の中に、海を眺めながらエアロバイクを漕ぐことができるスポーツジムを設置する。	●	●
2	プレジャーボートやマリッジット（水上バイク）の貸出し	プレジャーボートやマリッジット（水上バイク）などの有料貸出しを行う。管理業務は民間企業に委託する。	●	●
3	ライフセービング活動の推進	ビーチの安全・秩序を守るためにプロのライフガードを配置し、その拠点となるライフガードセンターを海水浴場の中央に設置する。 また、クラブハウスを設置して、マリンスポーツやビーチレクリエーションの安全を一元管理し、市民参加型のビーチクリーン等の安全講習会やジュニアプログラムなどを開催して住民が自ら地域の海を守り育てていくビーチカルチャーを確立する。	●	●
4	グランピングができる環境の整備	気軽かつ贅沢なアウトドアが楽しめるような、宿泊施設を提供してくれるキャンプ施設を整備する。 ※「グランピング」…“glamorous”（グラマラス）と“camping”（キャンピング）を掛け合わせた造語。	●	●
5	ドローンレース大会の開催	公園でのドローンの使用を認めて、ドローンレースを開催する。		●
6	熱気球のアトラクションの導入	稲毛海浜公園の芝生広場を起点とし、木更津や富津など県内各地へ熱気球を飛行させ、集客を図る。		●

4)賑わい創出について

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	木製デッキのショッピングモールの設置	国際大通りから砂浜にかけて、30店舗程度設置できる木製デッキでつないだショッピングモールを設置する。	●	●
2	海辺の雰囲気を楽しめるカフェ・バー等の設置	幕張の浜を海辺の雰囲気を楽しむエリアとして位置づけ、「トワイライトビーチ幕張」または「サンセットビーチ幕張」などと命名する。また、ビーチサイドのカフェ・バーやビーチ・ディスコ、飲食店や土産店等の常設店舗の増設、最終目標としてビア及び海上レストランの設置をする。	●	●
3	世界的規模のイベントの誘致・定着化、大型レジャー施設の誘致、先進技術の集積特区の形成	レッドブル・エアレースを定着させ、幕張新都心地区へのIR（統合リゾート）の誘致を行う。また、幕張や豊砂地区の海岸部へのテーマパークやレジャー施設もしくはIT企業の誘致、さらにはロボット工学等先進技術の集積特区の形成を行う。	●	●
4	南極観測船「しらせ」の誘致	南極観測船「しらせ」を海浜幕張沖に係留するよう誘致する。 ※現在は船橋港に停泊し、一般財団法人 WNI 気象文化創造センターが体験学習施設として活用・運営している。	●	●
5	コーヒースタンドの設置	海辺には夕陽を眺められる良いスポットでコーヒーを飲めるように、テイクアウト型のコーヒースタンドを設置する。	●	
6	市場直営のカフェレストランの設置	千葉市地方卸売市場と連携、もしくは直営のカフェレストランなどの人が集まる施設を設置する。	●	●
7	海外のビーチとの姉妹提携	知名度の高い海外のビーチと姉妹提携し、各国の名産品などを使用したグルメ屋台を並べるなどのイベントを開催する。		●
8	公園内へのコンビニエンスストアの誘致	休憩や軽飲食が可能なコンビニエンスストアを公園内に数か所誘致して、終日明かりが灯って人が居る場所をつくり、公園の安全を確保する。	●	
9	屋台の出店	特区制度等の活用によって規制を緩和して屋台が出せるようにする。		●

5)安全・安心（防災・防犯）について

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	防災基地にもなる「人工丘」の設置	巨大災害に備えて高度防災基地にもなる「人工丘」をQVC マリンフィールドと一体的に設置する。平常時の機能として、アクティビティやスポーツ、健康増進及び介護予防の施設モールを併設する。	●	●
2	夜でも人がいる安心のしかけづくり	幕張海浜公園の防風林の陸側の通路は車両通行可能な園路として整備し、松林を一部伐採して店舗を点在させ、夜でも人が居るように仕掛けて暗い・怖いイメージをなくす。	●	
3	イルミネーションを兼ねた夜間照明の設置	遊歩道やサイクリングコース沿いに、熱海市の熱海サンビーチのような太陽光パネルとLED照明を備えた石灯籠などを設置してイルミネーションを兼ねた照明を設置する。	●	●
4	突堤への照明灯の設置	検見川の浜やいなげの浜の突堤について、夜間の散策や釣りを安全に楽しめるように照明を設置する。灯具は眺望の妨げにならないようにフットライト式とし、明るさは夜の海に突堤がぼんやりと浮かんで見える程度にする。	●	
5	富士見の丘（築山）の避難場所としての活用	東京湾沿岸は大震災による津波の心配はないとされるが、「富士見の丘（築山）」に防災時の避難場所としての役割を持たせる。		●

6)交通アクセスについて

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	海からのアクセスの確保	海辺の公園整備にあたっては、海から行きたくなるような景観づくりを行い、船でアクセスできるよう千葉中央港の旅客船桟橋と連携する。屋形船の運行など民間事業が可能な環境づくりや、水陸両用バスの試験運行を検討する。	●	●

7)インフラについて

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	インフラの整備	海辺エリアでのイベントの開催やキャンプなどの際に必要な水道や電気等のインフラを整備する。また、海辺エリアのプロモーション促進のため、Wi-Fi環境の整備を行う。	●	

8)その他

No	提案	概要	ハード (整備改修等)	ソフト (管理運営等)
1	プロモーション活動の実施	多くの来訪者が海辺エリアを訪れ親しんでもらえるよう、定期的なイベントの開催などプロモーション活動を展開し、リアルタイムで情報発信を行う。		●
2	「漁業の千葉」の復活	かつて漁業で栄えていた「漁業の千葉」のブランドをつくる。高級な魚介類の養殖を行い、「海釣り施設」付近に放流して釣り客を呼びこみ、近隣のレストランやホテルに魚を供給する。		●

(2)活性化の推進にあたっての考え方

No	提案	概要
1	ニーズを高めるサービスの提供	「ニーズに的確に対応したより魅力的なサービスを提供していく」とあるが、ニーズが高まる（ウォンツに対応した）サービスの提供と阻害要件の除去が必要である。
2	活性化事業の留意点	活性化事業を進めていく中で、公園や道路等では営利行為の許可が必要なものもあるため規制緩和が必要な場合も出てくるが、事業収入を公共に収めることで公園・まちの整備・運営の資金になることを積極的にアピールして理解を求めていく。また、民間事業者が不当に利潤追求をしないよう、許可は一定期間にとどめる必要がある。
3	活性化事業の企画提案コンペの実施	活性化に資する事業の企画・実施を官が行うことは難しいため、民間から事業提案を募集する。 【手順①】原案は行政が作成した上で、詳細をコンサルタントへ委託して基本案を作成。 【手順②】基本案に基づき事業案のコンペを行い、第三者審査により事業者を決定。 【手順③】行政は事業に支障となる規制を緩和する。 【手順④】事業者は事業収支を報告する。 【手順⑤】報告に基づき、行政は事業拡大の可能性を検討し、可能と判断した場合はさらに拡大事業のコンペを行う。 【手順⑥】事業者が好採算に安住することのないよう、事業権を一定年数に制限し、更新時は改めてコンペを行う。
4	海辺エリアの活性化は幕張新都心の中心から	海辺の活性化には幕張新都心の存在感を発揮していくことが大切。海浜幕張駅前と国際通りをおしゃれな街に変えていき、来訪者の反応を見ながら街を海辺エリアに広げていく。
5	千葉県や千葉ロッテなど関係機関との連携	県立幕張海浜公園のD・E・Fブロックについては、千葉市、千葉県、株式会社千葉ロッテマリーンズ、公益財団法人日本サッカー協会等で構成した協議会を設置し、連携して今後の方向性について決めていく。
6	軽飲食やカフェの事業展開	幕張メッセでのイベントやQVCマリンフィールドでの試合の開催日に軽飲食やカフェなどの事業を展開する。まずは移動式店舗とし、事業性を確認しながら常設店舗へと変更していく。
7	アイデアと情熱のある人が商売できる環境づくり	民間活力の一環として、資金力がなくてもアイデアと情熱のある人が商売をできる環境を用意する。例えば、プロムナードの海辺ゾーンに100m～200mほどの店舗として利用できるボックス（コンテナハウス等）を用意する。

No	提案	概要
8	アジア系外国人居住者が多いことへの考慮	美浜区には中国・東南アジア・南アジアの住民が多いことを考慮して活性化の取組みを検討する。民間活力の導入にあたりこれらの国の企業をターゲットとする。
9	エリアマネジメントの考え方に基づく継続的な取組み	エリアマネジメントの考え方に基づく継続的な取組みが重要である。より幅広いエリアで、市民・企業など様々な関係者が関わりながら一体的な活動を行うしくみが必要である。
10	高齢者と公園の関わりについて	今後増えていく高齢者が公園の管理運営に関わるができるようにする。
11	民間活力の導入にあたっての留意点	稲毛海浜公園検見川地区には1社だけでなく、複数の企業を参入させる。
12	マリンスポーツを通じたまちづくりの推進	マリンスポーツに関するソフト事業を展開していくうえで、競技・地域振興・イベントの3つを軸とする。また、活性化を図る上では継続的に循環させることが必要となる。マリンスポーツを通じた海辺を活かしたまちづくりでは、行政・教育機関・競技団体と連携して進める。稲毛ヨットハーバーの拡充にあたっては、将来見込まれるソフト事業を十分に検討したうえで実施する。
13	サイクリングセンター跡地の利活用	建物等を撤去したサイクリングセンター跡地の利活用について検討すべきである。
14	施設の機能を連携させた一体的な取組み	歴史と自然の海辺ゾーンや稲毛記念館、稲毛ヨットハーバーを一体的に捉え、取組みを企画・実施する。
15	日本建築の設置場所	かつて海水浴が盛んであった頃に海の家が多く建ち並んでいたことから、バーベキューとの機能連携も考慮し、日本建築の設置場所はいなげの浜に隣接する陸地に設置する。
16	ビーチウォーク・シーサイドカフェ等の整備上の留意点	ビーチウォークやビーチラインの整備、シーサイドカフェの設置にあたっては、景観や健康、維持管理、環境等の観点から十分な検討が必要である。
17	ビーチウォークの寄附による整備	歩行者・自転車用のボードウォーク「ビーチウォーク」は、市民や企業からの寄附金によって整備する。一定額以上の寄附者には氏名を記載したプレートを設置するなど、市民が自分たちのビーチと思えるための工夫をする。

海辺のグランドデザイン

平成28年3月

千葉県

千葉県 都市局 都市総務課 海辺活性化推進室

〒260-8722 千葉県中央区千葉港1番1号

TEL 043-245-5309 FAX 043-245-5695

海辺のグランドデザインの策定には「緑と水辺の基金」を活用しています。

